

# 平成30年度 技術・家庭科研究発表会



平成31年1月16日(水)15:00~  
横浜花咲研修室 303・304  
口述発表 瀬谷区・金沢区



IV 平成30年度 横浜市技術・家庭科研究部会 各区研究主題

区名	研究主題
鶴見	『問題解決的な学習を目指した指導の工夫 ～学校の実態的に応じて～』
神奈川	主体的・対話的で深い学びをめざした授業改善 技術：一般企業の教育サポートを利用した授業 家庭：生徒が主体となつて行う調理実習の事前計画
西	(ICTを活用した) 主体的に学習に取り組める教材・教具
中	評価材料に関する研究 (特に生活の技能に関する評価)
南	生徒の理解を深める魅力ある教材研究
港南	技術・家庭科におけるICT活用の実態と問題点
保土ヶ谷	新学習指導要領実施に向けた取組
旭	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり
磯子	アクティブラーニングを取り入れた学習活動
金沢	深い学びを目指した授業の展開
港北	授業の充実に向けて 技術分野～計測制御について～ 家庭分野～課題と実践の取組について～
緑	新学習指導要領を見据えた学習題材の検討
青葉	安全かつ効率的に授業を行うための教室づくり
都筑	3年次の情報分野における評価・評定について
戸塚	新教育課程に向けた各校の取組み
栄	【新学習指導要領に向けて】 ・技術「双方向のプログラミング」 ・家庭「環境に配慮した製作」
泉	生徒の意欲を引き出す授業の工夫
瀬谷	新学習指導要領に向けたカリキュラム作り

# 平成30年度 鶴見区技術・家庭科 教育研究部会 研究報告

## 1. 研究主題

『問題解決的な学習を目指した指導の工夫 ～学校の実態的に応じて～』

## 2. 主題設定の理由

本年度は、「問題解決的な学習を目指した指導の工夫～学校の実態に応じて～」を中心に特に特色ある指導方法をアンケート形式で回答いただき、その内容を討議に教科研究会を行った。

本年度は、教えたい必須(基本知識と基礎技能)から、工夫されている指導(指導の工夫)を各校の実態に応じて、情報交換を含め研究会で討議し、各校、今後の学習指導につなげていきたいということで、前年度の研究を少し深めた『問題解決的な学習を目指した指導の工夫』を研究主題に設定した。

## 3. 研究過程

5月1日(火)	鶴見中学校	第1回研究会 研究テーマの設定 今後の確認
10月11日(木)	矢向中学校	第2回研究会 研究授業 必修教科など評価・評定に関する情報交換
10月17日(水)	鶴見中学校	第3回研究会 各校にアンケート用紙配布
11月14日(水)	鶴見中学校	第4回研究会 アンケートによるまとめについて検討 研究報告について最終検討および確認

## 4. 各校アンケートまとめ (各校特色ある内容を抜粋)

### 技術分野

#### A 中学校

学年	領域	題材	教えたい必須 (基本知識と基礎技能)	指導の工夫
1年	C;生物育成に関する技術 (2)生物育成に関する技術を利用した栽培または飼育	栽培計画・観察	種植え・発芽・開花を実習を通して観察・調べ学習を行う	・理科の『植物の観察』を基本に観察レポート(スケッチ)を行う。 ・発芽の観察では、観察の時に感じた疑問点を書き出し事前に図書館司書にお願いして用意してもらった資料を活用して図書室で調べ学習を行う。 ・夏季課題として自宅での観察・開花レポートを作成する。

#### B 中学校

学年	領域	題材	教えたい必須 (基本知識と基礎技能)	指導の工夫
	A材料と加工に関する技術 (3)製作品の設計・製作	身近な問題を解決するものをつくらう	・製作品の機能、構造などの検討 ・材料取り、部品加工、組立て、仕上げ	・基礎技能を習得させるために、練習製作を行ってから問題解決的な題材に進むようにしている。 ・授業時間内で完成させるために、設計段階でのチェックを念入りに行い、必要なら設計変更させる。

#### C 中学校

学年	領域	題材	教えたい必須 (基本知識と基礎技能)	指導の工夫
2年	A材料と加工に関する技術	製作品の設計製作	設計製作の基礎基本	製作品のイメージが明確にならない生徒が多いので、教科書の作品を生徒が多いので、教科書の作品を参考にさせたり先輩の作品を見せ参考にさせたり先輩の作品を見せたりして構想させる。たりして構想させる。できるだけオリジナルの作品を作れるよう質問に

## D 中学校

学年	領域	題材	教えたい必須 (基本知識と基礎技能)	指導の工夫
2年	D; 情報に関する技術 (2)イ 多様なメディアを複合し、表現や発信ができること	好きなモノ・ヒトを紹介しよう	・画像の取り扱い ・プレゼンテーションソフトの使い方	・人に紹介するためには自己満足で終わらず、見やすさの工夫やオリジナルティについて考える ・個人差が大きいため数人のグループで分からないことは教え合ったり、見せ合ったりを積極的に行う。
	C; 生物育成に関する技術 (2)生物育成に関する技術を利用した栽培	夏休み前から栽培計画・観察	観察しレポート作成ができるように記録をとっておく。	・夏季課題で育成するが、2学期の授業でパソコンを活用してレポートをしあげる。

## E 中学校

学年	領域	題材	教えたい必須 (基本知識と基礎技能)	指導の工夫
2年	C 生物育成に関する技術  (1)生物の育成に適する条件と育成環境を管理する方法  生物育成に関する技術の適切な評価・活用  (2)生物育成に関する技術を利用した栽培または飼育	栽培計画・観察 水耕栽培 サラダ水菜 ベビーリーフ スイートバジル	栽培実習を通して生物の成長について基本的な手入れの方法を理解し、技能を身に付け、収穫する。 実習した栽培方法以外についても学習し、地域や環境を視点にして考え、評価する。	作物を毎回観察し、成長過程での問題を発見し、問題解決方法をコンピュータで調べて手入れに活かす。 1回目(授業)と2回目(夏休み)に種を分け、夏休みの宿題では1回目(授業)より、よりよく手入れをし、収穫量を増やして技能が身に付いたという達成感を味わう。また、夏休み中は観察記録とともに収穫できた作物で料理をしてレポートを記入する。

## F 中学校

学年	領域	題材	教えたい必須 (基本知識と基礎技能)	指導の工夫
2年	情報の技術	プレゼンテーションソフトで作品を作ろう	インターネットを利用した調べ学習  情報モラルや著作権について  パワーポイントの操作	学活、総合、社会科と連携して  課題を生徒に選択させる  作品の発表をおこない、良いものを学年集会(総合)などで発表する

## G 中学校

学年	領域	題材	教えたい必須 (基本知識と基礎技能)	指導の工夫
1年	C; 生物育成に関する技術 (2)生物育成に関する技術を利用した栽培または飼育	栽培計画・観察	種植え・発芽・開花を実習を通して観察・調べ学習を行う	情報との活用でデジカメを活用し観察記録を撮り、印刷、所見を記入しレポートを提出する。 デジカメなどが無い場合、挿絵でもOK

### 家庭分野

## A 中学校

学年	領域	題材	教えたい必須 (基本知識と基礎技能)	指導の工夫
----	----	----	-----------------------	-------

2年	B;食生活と自立 (3)日常食の調理と地域の食文化	調理実習	・日常食の調理(魚・野菜)	・調理手順などの時間内に作業が出来るように時間配分と作業の効率化を考える。 ・調理以外にも、着色料の実験を行う。
	D;身近な消費生活と環境 (1)家庭生活と消費	消費生活と環境	・消費者の権利と責任 ・悪質商法 ・環境問題	・資料を活用して、ロールプレイングする。

## B 中学校

学年	領域	題材	教えたい必須 (基本知識と基礎技能)	指導の工夫
1年	B:食生活と自立 バランスの良い食事について考えよう	献立作り	栄養的にバランスの良い1日分の献立を立てる。	・朝食、昼食をもとに栄養バランス的にバランスが良いか考えさせる。 ・料理の組み合わせに配慮しているか考えさせる。

## C 中学校

学年	領域	題材	教えたい必須 (基本知識と基礎技能)	指導の工夫
	衣生活	夏休み中に家族の分の洗濯実習	普段何気なく使っている洗濯機や洗剤・漂白剤・柔軟剤について詳しく調べレポートにするなかで、環境に優しい洗濯の仕方を考察する。	それぞれの家庭には、その家庭ならではのやり方があるので、教科書を参考に、各自のやり方の違いを知る目的。なぜその方法をとるのか、他者の違いにも気が付かせる。
2年	調理実習 ホワイトシチュー・きゅうりの薄切り ミートソーススパゲッティ ・温野菜サラダ 鮭のムニエル・澄まし汁 ・粉ふきい		各実習は、すべて与えたレシピ通り 各実習には、必ず包丁の実技テストが行われる。 (薄切りの輪切り30秒間・玉ねぎのみじん切り1分間・梨の皮むき1分)	地域の保護者に年度初めボランティアを募集して、連絡を取り合いながら、調理実習と被服実習に参加してもらっている。 各実習には1から4名程度のボランティア参加がある。
	日常食の調理と地域の食文化	家族のために食事作り	夏休み中に、2日間は作る。 必ず保護者からのコメントをもらってくる。	何を作るか、自分のレベルを家族と相談しながら、決定していく。忙しい保護者
3年	幼児のための手作りおやつ(ひとり1枚クレープを焼く)		ボランティアも参加して実習時の相談相手になってもらう。 コミュニケーションの力をつけさせる。	コミュニケーションの力も大切なので、生徒たちに積極性を出させている。

## D 中学校

学年	領域	題材	教えたい必須 (基本知識と基礎技能)	指導の工夫
1年	私たちの食生活 献立作りと食品の選択 食品の選択	バランスの良い食事について	バランスの良い献立を作るために6つの食品群と栄養素を知る	・体に必要な食品群を考え、そのためのバランスの良い食事献立を考えられるようにする ・グループワークの発表をする
2年	私たちの衣生活と住生活	生活を豊かに	・環境を考えて生活を豊かにするためのものを作る。 ・ミシンを使いこなす	・生活で使えるように工夫させる ・正しく安全に作業できるよう指導する ・自分の考えた工夫を

・基礎縫いができる

形にできるようにする

## E 中学校

学年	領域	題材	教えたい必須 (基本知識と基礎技能)	指導の工夫
1年	B:食生活と自立 バランスの良い食事について考えよう	献立作り	栄養的にバランスの良い1日分の献立を立てる。	・朝食、昼食をもとに栄養バランス的にバランスが良いか考えさせる。 ・料理の組み合わせに配慮しているか考えさせる。

## F 中学校

学年	領域	題材	教えたい必須 (基本知識と基礎技能)	指導の工夫
1年	B食生活と自立 (3)日常食の調理と地域の食文化	りんごの皮むきテスト	包丁を持っている親指の使い方を学んで安全に効率よく包丁を使用できるようにする。	1回目:教室で包丁の使い方のポイントを説明する。 2回目:1時間の授業の中で生徒が家から持ってきたりんごを使用して皮むきの練習をする。 3回目:包丁テスト 4回目:もう少し包丁に慣れてほしい生徒に再度アドバイスしてりんご皮のむき方の確認をする。
2年	C衣生活・住生活と自立	浴衣を着る	洋服と和服の違いを体感する。	授業で和服のことを学習後、授業時間の中で外部講師に来てもらい全員浴衣の着用体験をする。たたみ方も教えてもらう。次の時間に体験してわかったことなどをプリントに記入し発表す

## G 中学校

学年	領域	題材	教えたい必須 (基本知識と基礎技能)	指導の工夫
1年	C (1)衣服の選択と手入れ ア,衣服と社会生活とのかかわり、 目的に応じた着用や個性を生かす着用の工夫 イ,衣服の計画的な活用や選択 ウ,衣服の材料や状態に応じた 日常着の手入れ  (3)衣生活、住生活などの生活の工夫 ア,布を用いた物の製作、生活を豊かにするための工夫	キッチン ストッカー	基礎縫いを身に付ける。	題材(キッチンストッカー)に入る前に題材の大きさの布を半分にして、 ・線を引く ・まち針の使い方 ・しつけをする ・並縫いをする(名前を縫う) ・玉留め10カ力以上を使ってデザインを考えるなど事前に練習を行った。 この後、キッチンストッカーに入った。

## H 中学校

学年	領域	題材	教えたい必須 (基本知識と基礎技能)	指導の工夫
1年	B:食生活と自立 (3)日常食の調理と地域の食文化	調理実習	・日常食の調理(魚・野菜)	・調理手順などを掲示し時間内に作業が ・調味料を前で計量させることで、手順を理解できるようにしている。

D;身近な消費生活と環境 (1)家庭生活と消費	消費生活と環境	・消費者の権利と責任 ・悪質商法	・調理以外にも、手洗いの実験を行う ・資料を活用して、 ロールプレイングする。
----------------------------	---------	---------------------	---

## I 中学校

学年	領域	題材	教えたい必須 (基本知識と基礎技能)	指導の工夫
1年	B:食生活と自立  (3)日常食の調理と地域の食文化	献立を立てる	<p>①夏休み前の授業で献立について学ぶ。</p> <p>②夏休みの宿題で「1食分の献立を立てて、実践する。」</p> <p>①②を踏まえて、1日分の献立を考える。</p> <p>&lt;グループワーク&gt;意見を出表にまとめる。</p> <p>&lt;発表&gt;</p> <p>ほかの班のよかったところをまとめる。</p>	<p>夏休みの宿題を見直し、足りない栄養素を書き留める。</p> <p>栄養の過不足を最終修正する。</p>

### まとめ

本年度は、各領域や題材などにおける指導の工夫点をアンケート形式でとりました。各校、昨年度以上に細かい指導の工夫に加え、互いの考えについて意見交換したりすることを通して、新たな考え方に気付いたり、自分の考えを深めるような対話的な授業も多くなってきているのではないだろうか。指導の工夫からどのように評価カードの活用やタブレットPCの利用が考えられる。タブレットPCの活用により指導法の仕方(アプリの利用)により指導の工夫が考えられる。このことから、来年度から活用できる情報が多くあげられて、多くの情報交換ができた。さらに、指導力が高めていきたい。





## <家庭分野>

### 1 研究主題設定の理由

調理実習は生徒の関心が高く、国立教育政策研究所が2009年に中学3年生を対象に行った「特定の課題に関する調査（技術・家庭）」の結果、「調理実習が好き」と回答した生徒は「どちらかといえば好き」まで含めると88.4%に及ぶ。多様化する現代の食生活の中で、生徒自身がこれからの食生活を主体的に営む力を身に付けていくことは大変重要である。しかし、家庭科全体の授業時数の不足もあり、教師主導型の授業になりがちで、生徒自身が調理をすることに対して課題意識をもって主体的に取り組むことには至っていないのではないかと感じる。

神奈川区では調理実習の事前学習に着目し、生徒が主体的に学ぶことができる、授業展開や教材開発が必要であると考え、研究主題として設定した。

### 2 研究の経緯

6月 前期研究総会、研究主題、年間計画の検討

7月 意見交換

9月 授業内容検討

11月 研究授業、研究報告まとめ

### 3 研究内容

調理実習の事前指導の授業内容の区内の状況は、作り方の手順を教員が一方的に説明し、生徒が個人で作り方をまとめるという内容が主であった。そのため、主体的・対話的で深い学びをめざし、付箋を用いて作り方の要点を生徒同士でまとめるという授業案を考えた。研究授業では、「肉じゃが」「青菜のごま和え」を班に分かれて生徒同士が話し合い、「おいしくするためのポイント」「効率よく作業を進めるためのポイント」「衛生・安全に関する注意事項」「環境に配慮した行動」の4つの視点から調理中の注意点についてまとめた。授業の前半では、各班の中で計画表を完成させていき、授業の後半では、それぞれの班で完成した計画表を見せ合うことで、1つの班の中では気が付くことのできなかつた視点を新たに取り入れていた。まとめの時間では、班で話し合ったことを個人のワークシートに書き写し、手順を個人が確認できるようにした。

### 4 まとめと考察

全体で共有した作り方を班に分かれて少人数で話し合う中で、4つの視点を与えることによって、それぞれの視点から調理の手順について学びを深め合う姿が見られた。一方で、今回の授業では、班での話し合い、全体での共有、個人の振り返りまで内容にあったため、個人の振り返りはなくした方が班活動の時間を十分にとることができたのではないかという意見も反省の中で挙げられた。今後は1つの授業の中で生徒の話し合い活動を充実するための内容を検討する必要があると考える。

## 平成 30 年度 神奈川区技術・家庭科研究部会 研究報告

### 1 研究主題

主体的・対話的で深い学びをめざした授業改善

技術：一般企業の教育サポートを利用した授業 家庭：生徒が主体となっていく調理実習の事前計画

### <技術分野>

### 2 研究主題設定の理由

主体的に取り組める授業づくりの為に一般企業のどのような教育サポートがあるか、また、企業の専門性や特殊性を生徒が学ぶことによって、「ものづくり」に興味関心を持てるようにしたいので、この研究主題に決定した。

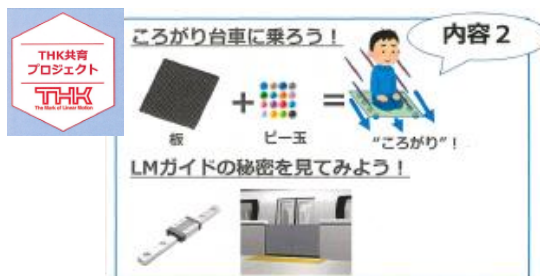
### 3 研究の経緯

6月 前期研究総会、研究主題、年間計画の検討

7月 意見交換

10月 研究報告まとめ

### 4 研究内容



いくつかの企業の取組がありましたが、二つの企業の取組をまとめました。

ジェームズダイソン財団のプログラムではサイクロン掃除機を分解、組み立てを通して、問題解決に関するグループワークを行う。また、教材のみ貸し出しも行っている。

THK株式会社のプログラムでは「ころがり技術で〇〇を楽に運び出せ」という重いものを運ぶことを目的にグループワークを行い設計、仕様を検討する。このほかにもロボットアームを題材にしたプログラムもある。

### 5 まとめと考察

専門的な知識や学校では用意できない教材などを使い、問題解決するためのグループワークなどが取り入れられているので、生徒の興味関心を引き出しやすい内容が多くみられた。一方、授業の準備などで企業との打ち合わせや、事前の学習、授業本体の時間が 2 時間設定になっているなど、安易に活用できない点もある。今後はこのようなことを勘案し、効率よく企業と協力していければよいと考える。

区番号

3

## 平成 30 年度 西区技術・家庭科教育研究部会 研究報告

### 1 研究主題

「(ICT を活用した) 主体的に学習に取り組める教材・教具」

### 2 研究主題設定の理由

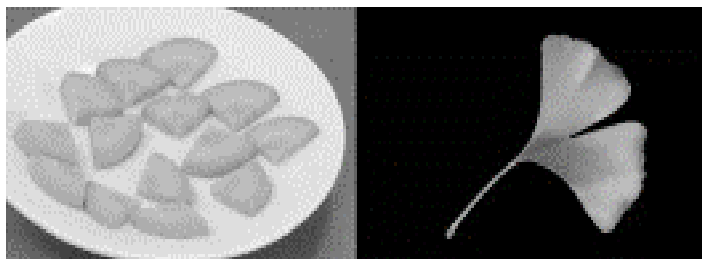
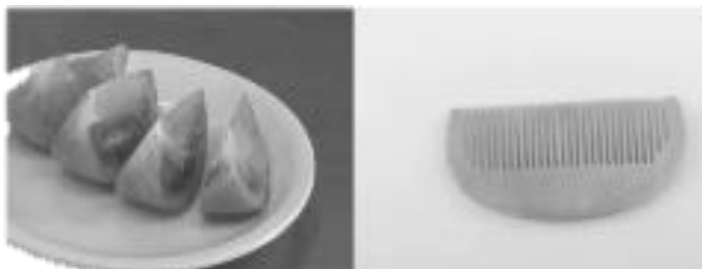
昨年度から西区では生徒が主体的に学習に取り組める教材・教具の工夫について研究を進めてきた。情報化が進む現代社会において ICT を活用した教育は、21 世紀を生きる子どもたち求められる力を育むと考えられており、文部科学省においても「第 2 期教育振興基本計画」の中で確かな学力をより効果的に育成するために ICT の活用を推進することが求められている。そこで各校で実際に ICT 活用した授業を行い、その授業展開の方法などを共有することにより、区内の授業をよりよくすることを目的に本研究主題を設定した。

### 3 研究の経緯

- 研究主題と研究の方向性について検討 (5 月)
- 「(ICT を活用した) 主体的に学習に取り組める教材・教具」について各学校で準備 (5~8 月)
- 教具などを持ち寄って意見交換 (9 月)
- 研究の実践報告 (11 月)

### 4 研究内容

#### (1) 私たちの食生活

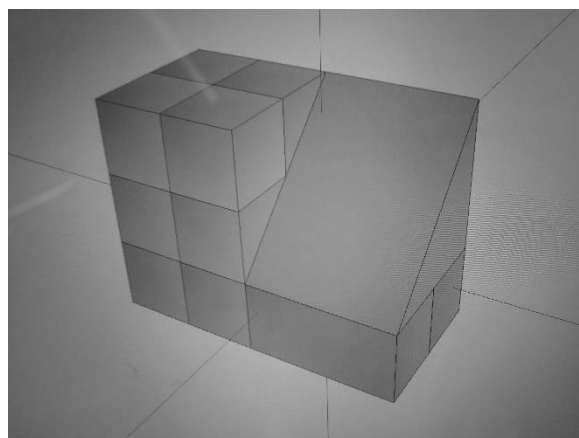


調理実習前の座学の授業において ICT 機器を活用し、作業の映像を見せながら説明を行った。実際の調理実習がスムーズにできた。

⇒エンジンの「いちよう切り」やトマトの「くし切り」など具体的なイメージをもって作業を行えた。生徒 2 人に 1 台程度配置することで、子どものペースに合わせて使用できる。

## (2) 製作品の設計・製作

「製作に必要な図を知ろう」



立体の模型と ICT 機器を活用し、生徒に課題の立体をイメージしやすい支援を行った。「奥行き」など実際の模型のどの部分を表しているのかわかりやすいと感じる生徒がいた。一方で、理解はしていても描き方がわかりづらい生徒もいた。ICT 機器の活用により、わかりづらい部分に戻ることも素早くでき指導のしやすさもあるが、教員が実際の板書や生徒の目の前で製図の作業をすることが理解につながる生徒もいた。⇒生徒の理解にあった支援の在り方については、生徒の実態を把握し適切な方法を模索する必要がある。

## 5 まとめと考察

実際の生活に近い内容を学習している技術・家庭科の学習では、以前から主体的に学習する方法や展開を行っている。各校で生徒の実態に応じて、工夫しながら様々な授業展開を行っていることが分かった。

タブレット等の ICT を活用した授業展開により、よりわかりやすいと感じる生徒もいるが、一方で目の前で教員による見本の動きがあったほうが作業に取り掛かりやすい生徒の様子も見受けられる。近年では生活の多様化や時代の背景など様々な変化が起きている。社会や生活からニーズの変化を分析し、それに応じた学習内容や方法を変えていくことが重要であると共に生徒の実態を把握し、生徒に合わせた授業展開が必要と考えられる。また ICT 機器の活用した授業展開を行うためには機器の準備や管理が必要不可欠である。生徒に利用させる場合、台数を確保することができない、(機器本体だけでなくデータも含めて)管理・保守できる教員がいない場合など難しい場合もある。教科の特性として授業コマが固まっている場合が多く、授業と授業の間の管理や準備する時間がないことも考えられる。今後も、管理・保守の在り方を含めて引き続き研究の必要があると考えられる。

区番号

4

## 平成 30 年度 中区技術・家庭科研究部会 研究報告

### 1 研究主題

評価材料に関する研究（特に生活の技能に関する評価）

### 2 研究主題設定の理由

現在、中区の技術・家庭科の教員は、正規雇用の職員が少なく、非常勤講師や臨時任用職員、他教科と掛け持ちで授業を行っている職員がほとんどである。また、新しく技術・家庭科の授業を受け持つ職員もいるが、校内で一人しかいない教科のため、授業内容や評価について、相談することがなかなかできないという実情である。さらに、新学習指導要領の全面実施にむけて、各学校の特性、地域性を踏まえ、学習活動を設定し、それに伴う評価内容の検討をしていく必要がある。そこで、研究主題として、生活の技能の評価材料を取り上げ、よりよい評価方法を検討する。

### 3 研究の経緯

各学校の評価計画や評価資料、評価をどのように生徒に提示しているか等、取り組みについて研究会を通して情報交換し、よりよい評価方法を討議した。

### 4 研究内容

#### 【技術分野】

内 容	評価資料や実習題材	評価内容や基準	その他 (生徒への提示方法など)
材料と加工に関する技術	製図（実習、テスト等）  （木材を使った）作品の製作	・ 寸法や角度など描き方が適切か ・ さしがねを正しく使って寸法線が引けたか ・ 工具を正しく使い切断、部品加工ができたか（切断面が真っ直ぐか、寸法線通りか等） ・ 組み立て（下穴を正しくあけられたか、釘が真っ直ぐ打ち込めたか等）	製図に直接評価を記入 製作カード、ワークシートに点検時の評価を記入
エネルギー変換に関する技術	作品の製作	工具を適切に使い、作品の製作ができているか（はんだづけの手順や仕上がり等）	製作カード、ワークシートに点検時の評価を記入

生物育成に関する技術	ポット栽培	育成計画を立てることができたか 生育に合わせて適切な作業を行えたか	育成計画表、栽培記録用紙に評価を記入
情報に関する技術	プレゼンテーションの制作 計測・制御プログラムの制作	設計図が描けたか テキスト、画像、アニメーション等が効果的に使えたか ・目的にあったプログラムの作成ができたか	設計図に評価を記入 評価シートに記入 ワークシートに記入

### 【家庭分野】

内 容	評価資料や実習題材	評価内容や基準	その他 (生徒への提示方法など)
家族・家庭と子どもの成長	映像を見てワークシート ロールプレイング おもちゃ作り	年齢や発達段階に適した声掛けや行動ができるか 安全かつ幼児の喜ぶ作品か	レポート、ワークシートに評価を記入
食生活と自立	献立作り 調理実習 実技テスト	食品群ごとの摂取量目安を 考えて献立がつくれたか 正しい手順で調理できたか 果物・野菜切り方	ワークシート、評価シート 実習計画書に評価を記入
衣生活・住生活と自立	コーディネート 作品の製作	TPOにあったコーディネートができるか 玉結び、玉留め、ボタン付け、ミシン縫い、まつり縫い等が正しくできたか	ワークシート、製作カード に評価を記入
身近な消費生活と環境	商品購入のシミュレーション	販売方法や品質などを踏まえ、自分の生活に必要な物資を適切に選ぶことができるか	ワークシートに評価を記入

### 5 まとめと考察

各学校の取り組みについて、知ることができた。様々な学校のワークシートや、カードなどを見ることで、生徒にとってわかりやすいものを選んで取り入れていく。

今回は生活の技能に関する評価についての情報交換が主な取り組みだったので、今後、より適切な評価ができるように改善していく。また、新学習指導要領に向けた評価の設定をしていけるとよい。生活の技能だけでなく、他の観点についても題材の設定と評価について、討議していきたい。

# 平成30年度 南区技術・家庭科研究会

テーマ [生徒の理解を深める魅力ある教材研究]

## ・各領域における取り組み状況

分野	内容	扱う学年・ 時数	工夫している点	今後の課題
家庭	調理実習「焼売」	2年2時間	新教育課程の内容に蒸すことが入ってきたので、肉の調理に蒸し料理を入れた。	生徒の反応は、よかったので来年度も実施したい。
	生活の課題と実践「大掃除大作戦」	1年冬休み	冬休み家の大掃除を実践し、レポートで提出。保護者からの一言も記入をもらっている。	実施後、保護者から今後も手伝ってほしいと要望が多いが、実際の生活に繋がるようにアドバイスしたい。
	生活に役立つものを作ろう。(ファスナーポーチと基礎縫い練習布)	1年 8～10時間	ミシンが1人一台の数とスペースがないため、それぞれの技能と進度で進めることができる。	個人的な技能の差があるのは、当たり前だが、小学校毎にやっていることがちがうので、その確認からはじめなければいけない。
	幼児のふれあい学習	3年1時間	手作りおもちゃの製作時間の確保が難しいので、夏休みに作らせている。	対外的な日程調整が難しい。
	栄養素の種類と働きを知ろう	1年1時間	単に知識を伝えるだけでなく、「ジグソー学習」で対話的に各栄養素の特徴を理解できるようにしている。	「ジグソー学習」を通じて一つでも欠けたら健康が保てないということを生徒は実感できたようである。小学校との系統性を重視していきたい。
	衣服の手入れをしよう。	1年3時間	洗剤の特徴について企業が無償で提供しているDVDを用いて視覚的に伝える。	実際に実験ができなくても映像があることにより、生徒はイメージしやすいようである。学んだことを実践し、生徒が生活に生かして継続的に行っていけるようにしたい。
	食生活と栄養	1年1時間	栄養の学習のまとめで、ピンゴカード作りをさせて振り返りをしながらゲームをする。	知識の定着と実技との時間配分を考えていきたい。



分野	内容	扱う学年・時数	工夫している点	今後の課題
技術	デジタル作品を設計・製作しよう。プレゼンテーション作成ソフトウェアを使って人物紹介をする。	1年10時間	発表を聞いて、互いに感想を書く。相互評価を行っている。	発表を全員で回すと時間がかかる。発表形式の工夫が必要。
	身の回りの整理をするための制作品を作ろう。	2年12時間	ふり返しシートを使い、毎回の授業で自己評価を行っている。	説明を的確にすることができる工夫が必要。
	材料加工に関する技術	1年10時間	ペンスタンド収納の場所がコンパクトになる。	作業が単調
	木材のけがき	1年1時間	基準面に直角にさしがねで引ける生徒が少ないので直角定規を使っている。	直角定規は15cmまでなのでもう少し長い治具があったら使いたい。
	情報モラル	3年	グループ学習で学び合いを行い理解を高めている。	生徒により意識の高さに差があるので、学び合いでその差を縮めたい。
	ロボット製作	2年	製作したロボットで、ロボコンを行っている。	費用が高めのことと改造をやりだすと区切りが難しくなる。
	エネルギー変換を利用した製作品を作る。	2年5時間	半田付けの方法を自作ビデオで見せて次に練習、本番の順に行っている。	半田付けの不良を少なくし、製作品良くできるようにする。

## ・考察

新しい教育課程を見据えて教材を研究する必要がある。家庭分野の実践報告では、栄養素の学習を教師が一方的に指導するのではなく、ジグソー学習を取り入れ、班での話し合い活動を重視し、班ごとの考えを共有し気づきを深める学習を実践する方法などを紹介してもらい、教師が勉強となった。今後も生徒が興味関心を持ち、主体的に学び、自らの生活をより良くしようとする態度を育成していきたい。そのために教材・教具を工夫し、よりわかりやすい授業の実践に努めたい。

# 平成 30 年度 港南区技術・家庭科教育研究部会 研究報告

## 1 研究主題

技術・家庭科における ICT 活用の実態と問題点

## 2 研究主題設定の理由

昨年度、各学校の ICT 機器導入の状況について調査を行った。今年度は、技術・家庭科において、ICT 機器がどのくらい活用されているのか、その実態を調査し、各校の取組の参考になるように設定した。

## 3 研究の経緯

区内の各学校にアンケートを配布し、その回答を中心として考察した。

## 4 研究内容

アンケート調査の結果

### ①技術・家庭科における ICT 機器の内容ごとの使用状況について

**技術分野**においては、回答されたすべての学校が何かしらの ICT 機器を使用している。使っている機器は、デスクトップパソコン、ノートパソコン、プロジェクタ、校内情報配信システム、実物投影機、デジタルカメラ、タブレット端末が挙げられた。

使用方法については、A～D 全内容において、パソコンでデジタル教科書を利用している学校や、プレゼンテーションソフトウェアを使って、説明をしている学校もあった。

内容ごとについては、次のとおりである。**A 材料と加工**においては、実物投影機を用いて製図の描き方の説明をしたり、デジタルカメラやタブレット端末を用いて、作品を撮影し評価・鑑賞のために利用したりしている。**B エネルギー変換**においては、実物投影機を用いて、はんだ付けの仕方などを説明したり、校内情報配信システムを用いて、資料映像を流したりしている。**C 生物育生**においては、実物投影機を用いて資料を拡大表示して説明するときを使うなどしている。**D 情報**においては、デスクトップパソコンを用いてデジタル作品の制作やその作品の発表会、計測・制御の実習などに使用している。

A～C の内容において ICT 機器を使用しない場面は、使用しないことが授業の目的を達成するのに適していると考えられる場合と答えている学校が多かった。

**家庭分野**においては、ICT 機器を積極的に使用している学校もある一方、ほとんど使用していない学校もあった。使っている機器は、DVD プレーヤーが多い。その他にノートパソコンや校内情報配信システム、タブレット端末などが挙げられた。

使用方法については、A～D 全内容において、DVD プレーヤーで教材映像の視聴を行う学校や、プレゼンテーションソフトウェアを使って説明をする学校があった。

内容ごとについては、次のとおりである。**A家族・家庭と子どもの成長**においては、プレゼンテーションソフトウェアを用いて絵本を作成、生徒の作品を例示に使用している。**B食生活と自立**においては、タブレット端末を用いて、献立作りの授業で生徒の作った献立をクラス全体で共有するために使用している。**C衣生活・住生活と自立**においては、校内情報配信システムを用いてミシンの使い方の映像を見せたり、プレゼンテーションソフトウェアで作成した資料で民族衣装の説明をしたりしている。**D身近な消費生活と環境**においては、DVDプレーヤーを用いて、カードの使い方などの映像を見せている。

使用していない内容がある場合、使用しない理由は、ICT機器が学校にあるが気軽に借りて使うことが難しいなど、使える環境ができていないことや機器の使い方が分からないという意見が多かった。

## ②『技術・家庭科においてタブレット端末（iPad）を使用する授業は、どのようなことが考えられますか。』についての回答結果

**技術分野**では、『栽培実習の時に育成記録をデジタル写真に撮って記録に残す。』『作品を写真に撮って記録に残す。』『調べ学習、グループワーク（発表など）、情報モラル』『TVにつないで動画などを見せる。写真や動画を撮る。』などが挙げられた。

**家庭分野**では、食生活において『調理で、クックパットとかクラシルを見せる。』『調理実習の各班の調理の様子を取り、後で発表する。』『朝食を写真で撮り、iPadに移して、テレビに表示して6つの食品群の振り返りに使用する。』、衣生活において『衣服製作の際に各班に1台まつり縫いの手元を撮影した動画を入れたiPadを渡し、その動画を参考に実践する。』『浴衣の着方の動画を用意し、その動画を見ながら（教科書の説明も読み取りながら）、自分たちで着付けをする。』などが挙げられた。

## 5 まとめと考察

今回、港南区の技術・家庭科の授業でのICT機器の使用状況やタブレット端末（iPad）を活用して実施した授業について調査を行った。多くの学校が、各内容でICT機器を活用して生徒にその内容が分かりやすくなるように、工夫して使われていた。

技術分野では、あえてICT機器を使わない指導のほうが、授業の目的を達成しやすいよと感じられる意見もみられた。

家庭分野では、ICT機器を使用したいという気持ちがある一方、使い方が分からなかったり、環境が整っていなかったりして、使用できていないという意見もあった。

今後、教員がICT機器の活用方法が分かる研修会を充実させて、より実践的に使われる各学校の環境を整える必要があると感じた。授業でのタブレット端末を含めたICT機器の有効な活用方法を知らせるためにも、ICT機器の具体的な使用例を区研究部会で情報を共有し、よりよい授業を目指していくことが今後、更に強く求められてくと思われる。

## 港南区 技術・家庭科におけるICT活用の実態と問題点に関するアンケート調査の集計結果(7校回答)

<b>技術分野</b>		
<b>技術・家庭科におけるICT機器の使用状況について内容ごとに答えてください。</b>		
	<b>使用しているICT機器</b>	<b>どの学習内容(目的)で、どのように使っているか。</b>
<b>A 材料と加工</b>	ノートパソコン・プロジェクタ	デジタル教科書
	ノートパソコン・プロジェクタ	材料の性質、丈夫にする方法などをプレゼンテーションソフトを使って説明
	ノートパソコン	木材の性質・工具の使い方をプレゼンテーションソフトを使って説明
	ノートパソコン	キャビネット図などの描き方
	校内情報配信システム	金属の性質のVTRを見せている。
	デジタルカメラ・タブレット	作品を写真に撮って評価、良いものは作品のみ紹介する。ビデオで紹介。
	実物投影機・プロジェクタ	キャビネット図などの描き方
<b>B エネルギー変換</b>	デスクトップパソコン・プロジェクタ	デジタル教科書
	ノートパソコン・実物投影機・プロジェクタ	エネルギー変換、発電、機械の運動などをプレゼンテーションソフトやプリントを使って説明
	実物投影機・プロジェクタ	はんだ付けの仕方など
	ノートパソコン	映像を流している。
	校内情報配信システム	節電についてVTRを見せている。
<b>C 生物育成</b>	デスクトップパソコン・プロジェクタ	デジタル教科書
	ノートパソコン	プレゼンテーションソフトを使って植物の育て方を説明している。
	ノートパソコン・プロジェクタ	技術の評価・活用時にプレゼンテーションソフトやプリントを使って説明。
	実物投影機・プロジェクタ	ワークやプリントを見せて説明するときを使う。
<b>D 情報</b>	デスクトップパソコン	デジタル作品の作成
	デスクトップパソコン・プロジェクタ	デジタル作品の作業方法を見せるのに使っている。
	デスクトップパソコン・ノートパソコン・プロジェクタ	デジタル教科書 作品の発表会
	デスクトップパソコン	マルチメディアの取り扱いを授業で実践している。ワードでウェブページを作成。ハマロボの制御を行っている。
	デスクトップパソコン	授業の手段として
	デスクトップパソコン	プログラミング ネット社会の歩き方など 情報モラルの教材
	デスクトップパソコン	デジタル作品の制作、計測・制御(プロロボ)
	ノートパソコン・実物投影機・プロジェクタ	コンピュータ、ネットワークの仕組みなどをプレゼンテーションソフトやプリントを使って説明。
<p>上記のA～Dの中で使用していない内容がある場合、使用しない理由について、○をつけてください(複数可) ※□/7の数字は、それぞれの選択肢で、7校の学校中何校○をつけたかを表す。</p> <p>3/7 全内容で使っている。</p> <p>0/7 使用したいICT機器が学校にない。</p> <p>0/7 ICT機器が学校にあるが、使える環境ができていない。(設定ができていない・故障しているなど)</p> <p>1/7 ICT機器が学校にあるが、使える環境ができていない。(台数などの関係で気軽に借りて使うことが難しいなど)</p> <p>0/7 ICT機器が学校にあるが、使える環境ができていない。(その他: )</p> <p>0/7 ICT機器の使い方がわからない。</p> <p>0/7 ICT機器の使い方はわかるが、授業の中でどのように生かしていくのかがわからない。</p> <p>4/7 あえてICT機器を使わないほうが、授業の目的を達成するのに適している。</p>		

<b>技術・家庭科においてタブレット端末(iPad)を使用する授業は、どのようなことが考えられますか。記入してください。</b>	
<b>技術分野</b>	栽培実習の時に育成記録をデジタル写真に撮って記録に残す。 作品を写真に撮って記録に残す。 調べ学習、グループワーク(発表など)、情報モラル TVにつないで動画などを見せる。写真や動画を撮る。

## 家庭分野

技術・家庭科におけるICT機器の使用状況について内容ごとに答えてください。

	使用しているICT機器	どの学習内容(目的)で、どのように使っているか。
A 家族・家庭と子どもの成長	DVD	
	ノートパソコン	授業の流れをパワーポイントで。生徒の作品を示す。
	DVDプレーヤー	教材映像の視聴
	DVDプレーヤー	学習する前や学習後に理解を深めるために短時間(30分くらい)にまとめたNHKDVD教材を使用している。
	ノートパソコン	パワーポイントで絵本を作らせている。
	校内情報配信システム	幼児の1日の生活をビデオを通して学習するために使用している。
B 食生活と自立	DVD	
	ノートパソコン	授業の流れをパワーポイントで。生徒の作品を示す。
	DVDプレーヤー	教材映像の視聴
	DVDプレーヤー	学習する前や学習後に理解を深めるために短時間(30分くらい)にまとめたNHKDVD教材を使用している。
	ノートパソコン	
	タブレット端末(ipad/AppleTV)	献立作りの授業で生徒の作った献立をクラス全体で共有するため。
	校内情報配信システム	調理実習のための事前学習で調理室の使い方、野菜の切り方などビデオを通して使用している。
C 衣生活・住生活と自立	DVD	
	ノートパソコン	授業の流れをパワーポイントで。生徒の作品を示す。
	DVDプレーヤー	教材映像の視聴
	DVDプレーヤー	学習する前や学習後に理解を深めるために短時間(30分くらい)にまとめたNHKDVD教材を使用している。
	ノートパソコン	民族衣装をパワーポイントで説明。
	DVD	基礎縫い
	校内情報配信システム	ミシンの使い方(上糸・下糸のつけ方)
D 身近な消費生活と環境	DVD	
	ノートパソコン	授業の流れをパワーポイントで。生徒の作品を示す。
	DVDプレーヤー	教材映像の視聴
	DVDプレーヤー	学習する前や学習後に理解を深めるために短時間(30分くらい)にまとめたNHKDVD教材を使用している。
	ノートパソコン	
	DVD	カードの使い方

上記のA～Dの中で使用していない内容がある場合、使用しない理由について、○をつけてください(複数可) ※□/7の数字は、それぞれの選択肢で、7校の学校中何校○をつけたかを表す。

5/7 全内容で使っている。

0/7 使用したいICT機器が学校にない。

0/7 ICT機器が学校にあるが、使える環境ができていない。(設定ができていない・故障しているなど)

2/7 ICT機器が学校にあるが、使える環境ができていない。(台数などの関係で気軽に借りて使うことが難しいなど)

1/7 ICT機器が学校にあるが、使える環境ができていない。(その他: )

2/7 ICT機器の使い方がわからない。

0/7 ICT機器の使い方はわかるが、授業の中でどのように生かしていくのかわからない。

0/7 あえてICT機器を使わないほうが、授業の目的を達成するのに適している。

技術・家庭科においてタブレット端末(iPad)を使用する授業は、どのようなことが考えられますか。記入してください。

家庭分野	<p>食生活 例えば、私の朝食を写真で撮り、ipadに移して、テレビに移し6つの食品群の振り返りに使用する。 日本の郷土料理を各班で調べる。 調理実習の手順をipadで撮影し、プロジェクタで流す。 献立作りの途中で早く進んでいる生徒の献立を写真で撮り、全体に共有する。</p> <p>衣生活 衣服製作の際に各班に1台まつり縫いの手元を撮影した動画を入れたipadを渡し、その動画を参考に実践する。 浴衣の着方の動画を用意し、その動画を見ながら(教科書の説明も読み取りながら)、自分たちで着付けをする。 繊維の原料の画像を用意し、視覚教材として使用する。綿⇒コットン、毛⇒羊など</p> <p>話し合い活動のときの付箋がわり 調理実習の各班の調理の様子を取り、後で発表。 授業後の作品をとる。 調理で、クックパットとかクラシルを見せる。</p>
------	---

## 平成30年度 保土ヶ谷区 技術・家庭科研究部会 研究報告

1. 研究主題 新学習指導要領実施に向けた各校の取組
2. 設定理由 新学習指導要領実施に向けて、実施計画や教材について情報交換を行い、参考にしあうことで、円滑な移行に役立てる。
3. 研究経緯 6月4日(月) 区教科前期研究総会 研究主題の決定 年間計画の確認等  
11月6日(火) 区教科後期研究総会 研究授業 研究のまとめ等
4. 研究内容

項目	教科	分野	説明	
年間計画	技術	情報	3月の授業で次年度につながる課題を設定し継続性をもたせる。	
		家庭	食生活 住生活 消費生活	理科、保健体育との横断 保健体育との横断 社会との横断
	授業	技術	情報	旅行行事とコラボしてネット検索やモラルの学習をする。
			情報	ロボコンの取組の中で特許申請や知的財産も学習させる。
家庭		衣生活	ペーパー浴衣を製作し和服の構成理解を図る。	
		衣生活 住生活 住生活	帯結び・たたみ方の実習。 幼児・高齢者と家庭内事故の関連から特徴・防ぎ方を学習する。 介護について扱う。	
教材	技術	材料と加工	スプーンを例とした素材の学習。	
		材料と加工	数学の立体模型を用いて第三角法の説明を行い理解しやすくする。	
		エネルギー	特許申請用紙を作成させる。	
		情報	プレゼンテーションソフトで発表し、相互評価させる。	
	家庭	衣生活	資源・環境に配慮し弁当袋をエコバッグに変更。	
		衣生活	授業の中で和服の着装を見せる。	

### 5. まとめ

新学習指導要領実施に向けて、「育成を目指す資質と能力」の向上を効果的に実践できる年間計画の作成を進め、学習効果を高める教材を考え、その情報を共有することで少人数教科の不利を補うとともに、授業の中で活用していくイメージを膨らませることができた。

今後、新学習指導要領に沿った年間計画を立てるにあたり、研究授業を参考に、「三年間を見すえた授業計画を立て、生徒の成長につながる授業を行うことが大切」との助言をいただいた。

## 平成 30 年度 旭区技術・家庭科研究部会 研究報告

### 1 研究主題

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり

### 2 研究主題設定の理由

新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善が求められている。これまで技術・家庭科では、生活を見つめ課題を見出し、その解決方法を考える授業を展開し、思考力・判断力・表現力を育んできたと言える。しかし、主体的に、他者との協働により思考を深めていく授業に対して、苦手意識をもっている教師も散見される。そこで、生徒の自立と共生を目指し、未来を創る人材を育成する観点から、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を目指した。

### 3 研究の経緯

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けての課題を見出すため、区内中学校に勤務し、技術・家庭科の授業を担当する教員に対して質問紙調査を行った。調査の結果から、グループ学習を行ってはいるが、十分に準備できる時間がなかったり、どのような方法を取ればよいか分からなかったりなど課題が見られた。その課題から、生徒のグループ学習を充実させた授業づくりについて研究を行った。

横浜市教育課程研究委員会家庭科、技術・家庭科専門部会における提案や、市技術・家庭科研究部会が、平成 27 年度関ブロ山梨大会での第 7 分科会（家庭分野 C 衣生活・住生活）、平成 29 年度関ブロ新潟大会での第 4 分科会（技術分野 D 情報に関する技術）において発表した研究では、「知識構成型ジグソー法<sup>※1</sup>（以下、ジグソー法）」を用いた授業が提案された。そのため、市内中学校に勤務する技術・家庭科の職員は、この「ジグソー法」の方法について知っている職員が多いと思われる。

「ジグソー法」を用いた授業では、エキスパート班からジグソー班に分かれて学習することに面白さがあるが、生徒を効率よく移動させることに課題があると考えられる。そこで、両分野で活用できるよう、生徒にとって動きが分かりやすい資料を作成し、授業に活用した。

※1…出典:『東京大学 CoREF 自治体との連携による協調学習の授業 づくりプロジェクト』

### 4 研究内容

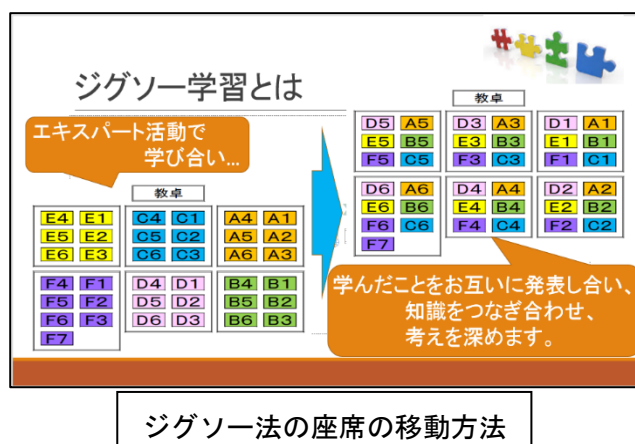
#### (ア) ジグソー法による授業の展開方法

エキスパート班からジグソー班に分かれるときに、説明が煩雑であり、生徒が混乱し

てスムーズな座席移動が困難である。そこで、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを用いて、視覚的に分かりやすく移動方法を示した。学級の人数によって変える必要はあるが、このシートを用いれば様々な内容の授業でジグソー法を用いることができると考えられる。

#### (イ)ジグソー法を用いた授業

家庭分野B食生活と自立の授業において、「6つの食品群」の学習でジグソー法を用いた。1群から6群に示される食品や、その食品群の栄養的特質、具体的な食品をエキスパート班で学び合い、その後「4-(ア)」に示したシートをテレビに映し出し、ジグソー班に移動するとともにジグソー活動を展開した。



#### 5 まとめと考察

教育課程や関ブロにおける研究発表では、ここ数年ジグソー法を用いた授業が多く提案されている。他県の発表や、国立大学附属中学校の公開授業においても、類似しているワールドカフェスタイルを用いた授業も数多く見られる。横浜市立中学校に勤務する技術・家庭科の教員にとっては、身近に感じられる学習方法になってきているのではないかと考えられ、教員が取り組みやすくなることを願って研究を進めた。

今回研究したシートを提示すると、少しの説明は必要なものの、座席移動方法が分からなくなる生徒はあまり見られなかった。視覚的な資料を提示することが、円滑な学習活動につながったと考えられる。

また、今回は「6つの食品群」を題材にした授業で研究を進めたが、すでに学習した食品の栄養的特質や栄養素の働きなどの知識を使い、生徒の中に対話が生まれ、協働してエキスパート活動に取り組む姿が見られた。実際に一斉授業とジグソー法を用いた授業の定着の仕方を比較していないが、エキスパート活動を行うことで理解が深まったと発言する生徒が見られた。

今後は「ジグソー法」をさらに活用するとともに、他の学習方法を取り入れ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりをさらに続けていきたい。



## 平成 30 年度 磯子区技術・家庭科研究部会 研究報告

### 1 研究主題

アクティブラーニングを取り入れた学習活動

### 2 研究主題設定の理由

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習活動の充実を図る。
- ・学習指導要領の改訂を見越し、教員の授業力向上を図る。

### 3 研究の経緯

新学習指導要領の基本方針の一つに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の改善が挙げられている。そこで、「主体的・対話的で深い学び」を能動的学習（アクティブラーニング）と捉え、アクティブラーニングの視点に立った授業をどう改善していくべきかを研究することとした。昨年度は、教員側の捉え方や「アクティブラーニングの視点に立った授業」の実施状況を把握し、意見交換を行った。今年度は、年間授業計画の見直しを含めながら、能動的学習を積極的に取り入れてみることにした。そして、生徒の意識の中に深い学びに変化しているのかを図るため、アンケートを行うこととなった。

### 4 研究内容

#### ①アクティブラーニングを取り入れる授業と内容の検討

昨年度の実態調査から、取り入れやすい活動として、「生徒同士がお互いに評価しあう活動」「生徒同士で意見を出し合う活動（ブレインストーミング）」「生徒による発表（プレゼンテーション）」「データの整理・分析やレポートなどのまとめ活動」「まとめのプリントや壁新聞などをつくる活動」「教員が生徒にテーマを与えて調べる活動」などが取り入れやすいことが分かったことから、今年度の年間授業計画に取り入れられる活動や内容を検討した。

#### ②生徒への意識調査の項目検討

アクティブラーニングを取り入れることで身につけてほしい能力は、「自分の考えを言語で表現する力」「自分の考えを深めようとする思考力」「途中であきらめず最後まで粘り強く取り組む力」「何事にも積極的に取り組む意欲」「他者から言われなくても自ら主体的に学ぶ意欲」「他者と協力するための社会性や協調性」「教科で身につけた知識・技能を活用する力」を挙げた学校が多かった。このことから、授業の実施に当たり、高まったと考えられる能力に教員と生徒の意識が一致しているかを判断できる項目を検討した。

	意識調査項目	十分に できた	やや できた	あまり できな かった	まったく できな かった
①	自分の考えを伝えることができた。				
②	これまでにないアイデアを考えることができた。				
③	自分の考えを深めることができた。				
④	自分で課題を見つけることができた。				
⑤	情報を収集し、分析・整理することができた。				
⑥	自分で設定した課題に対し、主体的に行動できた。				
⑦	最後まで粘り強く取り組むことができた。				
⑧	何事にも積極的に取り組むことができた。				
⑨	他者から言われなくても自ら主体的に学ぼうとした。				
⑩	グループで意見交換をすることができた。				
⑪	グループで協力して活動できた。				
⑫	基礎的な知識や技能を活用することができた。				
⑬	授業で身につけた知識や技能を活用することができた。				
⑭	教科で身につけた知識を授業以外で活用することができた。				
⑮	文章などを正確に読み、理解することができた。				

③アクティブラーニングを取り入れた授業の実施

④意識調査の実施

## 5 まとめと考察

アクティブラーニングを取り入れた授業を実施する上で不安視されたのは以下の内容であった。「授業の進度が遅くなる」「授業の時数が足りない」「学習になじめない生徒やついてこれない生徒がいる」生徒の学習活動を客観的に評価することが難しい」「活動に目が向き、活動の目的を見失いがちである」「授業前後の教員の負担が増加する」

今年、どの学習内容・方法で実施できるかを検討し、可能な限りアクティブラーニングを取り入れた授業を実施してみた。授業実施の学習内容や期間が各校で異なるため、生徒の意識調査をまとめるのは年度末に設定した。

生徒の意識調査の結果をもとに、どの学習内容や方法が「主体的・対話的な深い学び」の実現に効果的なのかを来年度の研究として引き継ぐこととした。

区番号

10

## 平成30年度 金沢区技術・家庭科研究部会 研究報告

### 1 研究主題

「深い学びに導く授業の展開例」

### 2 研究主題設定の理由

中学校指導要領は平成30年4月1日から移行措置を実施し、平成33年4月1日から全面実施することとなっている。その改定の基本方針の中に「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進という内容が盛り込まれている。「深い学び」とは、どのようなものなのか、「深い学び」に導くためにはどのように実践していけばよいものなのか、研究を深め、指導案を各校で持ち寄ることで、日々の授業の展開に役立てられ、明日からでも実践できるようにするためにこの主題を設定した。また、技術・家庭科の教員は1校当たりの人数が少なく校内での情報交換が厳しい状況にあり、この区研を通して情報を共有することで、学習指導要領改訂の主題を踏まえた各校での実践に役立てたいこともひとつである。

### 3 研究の経緯

6月	研究主題の検討、年間計画の作成等
8月	アンケート調査項目の検討
9月	アンケート調査の実施
10月	アンケートの集約
11月	研究授業及び研究討議
12月	研究発表原稿作成
1月	市研究発表会

### 4 研究内容

次の(1)～(5)について各校よりアンケートを取り、実際に授業の指導案を各学校で作成した。

(1)「主体的・対話的で深い学び」とは、どのような授業イメージを持っていますか。

- 工夫・技能を高める。
- 持続可能な未来の社会を築くための技術を生み出させる人材を育むような授業。
- 様々な教科で学んだ知識を生かして、一つの課題を解決する。
- 生徒それぞれが主体的に考え、周囲の技術や環境に目を向け、仲間と共有してそれらの良いところや改善点、改善策を考えていけるような授業。
- 評価ありきではなく、生徒の自由な発想を尊重しつつ、問題解決ができる授業。
- 作品制作の中で自ら課題を解決する力を育てるために、その問題解決の方法を失敗などを通して付けている授業。
- 持っている力を活用し、問題を発見したり解決に向けて自発的に取り組んだりすること。
- 目的に応じて詳しく調べながら自分の考えをつくり、またそれを集団での対話を通じて広げたり深めたりすること。
- 習得・活用・探求・という学びの過程の中で、「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学び。
- 学習で習得した知識をより明確に自分のものにするために自ら進んで情報を得たり、段取りを考えて体験学習に臨むなど意欲的な姿勢が身につくような授業イメージ。
- 知識の定着のみでなく、自ら考える学び（なぜだろうという考え）
- 講義的な学習ではなくて、生徒が問題を掘り下げて考え取り組む学習。
- 教師側が一方向的に知識を与えるのではなく、生徒自らが考える場面を多くする学習形態。
- 生徒自らが関心を持ち、学習をしていく。
- 生徒自身が身近なこととして理解し、考え、実生活に生かすことができる授業。
- 全人的な参加を促す授業。
- 他の人と対話をしたり、他の意見を聞いたりすることで、自分の考えや、グループの考えなどを、深めることができたり、広げたりできる授業だと考えます。
- これまでに身につけた力を実際に活用して、「見方・考え方」を働かせて、問題を発見したり解決に向けて取り組んだりする生徒の姿が見られる授業だと思います。
- 一つの課題から生徒個人の課題へ移行し、それをグループ、クラスの共通課題に持っていき、どのように解決すればよいかを討議、グループワーク等で提案し見つけ出していくこと。
- 今まで知らなかったことに気付き、新しいことに取り組む意欲のもとになるようなイメージ。
- 知識を身につけたうえで、実践を行う。(今後の生活に生かしていくことができる。)

(2)どの授業内容で「主体的・対話的で深い学び」の授業が展開できそうですか。

技術分野

- 栽培の学習 育て方の工夫
- 自らの手で物を作りだし、それによってみんなと喜びを分かち合えるような場面のあ  
る授業
- エネルギー変換に関する技術「電気を作る仕組み」
- エネルギー変換の学習。どのように電気を選ぶか。
- 木材加工 のこぎりびき 組み立て 釘打ち
- 生物育成 植物工場 エネルギー変換 プロペラの設計
- 材料と加工・エネルギー変換・生物育成・情報に関する技術、各分野の評価活用の学習  
において展開します。
- 情報領域 マルチメディア作品・制作（HP制作を通して）
- 材料加工 設計

家庭分野

- 消費者教育 支払い方法の選択等について
- 衣生活の学習「和服と洋服の違い」を学ぶ時。
- 住生活「災害に備えた生活について考える」
- 災害に備えた住まい方 防災学習
- 全て
- どの授業でも「主体的、対話的で深い学び」ができるように、授業展開を工夫できるよ  
うにしています。
- バランスの良い食事作り・安全な住まい・地域との関わり
- 食品の選択
- 幼児の成長と発達

(3)「主体的・対話的で深い学び」を実践するためにどのような手法を利用しますか。

技術分野

- |                             |    |                               |    |                          |    |
|-----------------------------|----|-------------------------------|----|--------------------------|----|
| <input type="radio"/> 体験的学習 | 6校 | <input type="radio"/> グループワーク | 5校 | <input type="radio"/> 座学 | 2校 |
|-----------------------------|----|-------------------------------|----|--------------------------|----|

家庭分野

- |                               |    |                              |    |                              |    |
|-------------------------------|----|------------------------------|----|------------------------------|----|
| <input type="radio"/> グループワーク | 7校 | <input type="radio"/> 体験的学習  | 4校 | <input type="radio"/> 座学     | 2校 |
| <input type="radio"/> 図書調べ学習  | 1校 | <input type="radio"/> ロールプレイ | 1校 | <input type="radio"/> ICTの活用 | 1校 |
| <input type="radio"/> 人材の活用   | 1校 | <input type="radio"/> 映像資料   | 1校 |                              |    |

(4)「主体的・対話的で深い学び」を通してどのような力が身につくと考えますか。

#### 技術分野

- 生活力
- 自己肯定感と将来への希望。
- エネルギーの必要性和環境問題。
- 技術の光と影に着目し、それらを総合的に考え自らが選択する力。コミュニケーション能力。立場の違いを踏まえてものを考える力。
- 工夫や創造する力
- 課題を設定する力、課題を解決する力
- 物事を理解するために考えたり、具体的な課題について探求したりするにあたって、思考や探求に必要な道具や手段として資質・能力の三つの柱が活用・発揮され、その過程で「見方・考え方」が身につく。
- 知識を活用して独創的な作品を作ることで思考力や判断力を働かせ、表現の力が高められる。
- 課題解決や生涯自ら学習する力

#### 家庭分野

- 表面的な知識にとどまらず、それに基づき自分の考えをまとめると同時に、より多くの他者の意見を聞くことができることで、学習を深めることができ、自分で考え意見を持つことができる。
- 確かな知識
- 実生活に結び付けることができる力と、災害への備え。
- 自分のことは自分で守る力
- 生活を工夫創造する力
- 主体的に考えることができる力や、他の人の話を傾聴し自分の意見を相手に伝える力が身につくと思います。
- 自分や周りの人、地域に興味・意欲を持ち、将来的に活用できそうな課題を自ら選択、追及できる力
- 自ら考え、選び、決定する力。
- 創意工夫
- 実践することによる技能の習得

(5)「主体的・対話的で深い学び」を実践する上での難しさは何ですか。

#### 技術分野

- 少人数授業やT T授業を取り入れたい。
- 時間や環境に制限が多い。
- グループワーク等を用いて学習を進められたら良いと思うが、授業時数との兼ね合いでそれらを十分に行うことが困難であるように感じる。
- 時間数、学級人数、生徒のコミュニケーション能力
- 正しい答えとは何か。結論が出ない。
- 評価
- 基礎的基本的な知識技能の定着をすべての生徒に確実にすること。
- 時間的な問題。

#### 家庭分野

- 多様な意見が出る中で教師が上手にそれを交通整理していくことが求められ、決められたことを行っていく講義形式の授業と異なりむづかしい。
- 全員が課題を理解して話し合いやまとめなどを自分自身の課題として共有できるか。
- 生徒個々の生活経験に大きな差があるため、考えが大きく異なる。
- どのように関心を向かせるか。
- 現行の評価制度
- 授業数の少なさです。
- 限られた時間の中で、考えを深めていく思考力に個人差があり、グループでコミュニケーションを図りながら、どこまで浸透できるかが難しいと思います。
- 時間的な問題
- 実習先の受け入れの確保
- 補助教員の確保

## 5 まとめと考察

「主体的・対話的で深い学び」とはどのような授業イメージか、という問いに対しては教師側が一方的に知識を与えるのではなくて、グループワーク等を通して生徒自らが考える場面を多くする学習形態といった意味合いの意見が多く出された。また、これまでに身につけた力を実際に活用して見方考え方を働かせて問題を発見したり解決にむけて取り組んだりする生徒の姿が見られる授業などといった表現も見られた。

どのような内容で「主体的・対話的で深い学び」の授業展開ができるか、という問いに対しては様々な意見が寄せられた。ここについては、技術・家庭科では、「主体的・対話的で深い学び」が言われる前から取り組んでおり、現在も授業の中で実践していることが少なくない。学校によってはすべての授業で展開できるという学校もあり、生徒や学校の実態に応じて多様な学習形態を組み合わせ、授業を組み立てていくことができると感じた。

「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業の手法に関しては技術分野・家庭分野共に体験的学習・グループワークが多くなっている。他にも図書調べ学習、ICTの活用、人材の活用、映像資料など様々な手法があげられた。

「主体的・対話的で深い学び」を通してどのような力が身につくかという問いに対しては、題材の目標の達成にとどまらず、生活力、主体的に考える力、立場の違いを踏まえてものを考える力、表現の力、自ら選び決定する力など様々な力が身につくと考えていることが分かった。

主体的・対話的で深い学びの難しさについては、多くの学校で時間や環境に制限が多いという回答が多くみられた。少人数やTT授業を多く取り入れたりグループワーク等を取り入れるための時間数の確保等の課題が多くみられた。また、グループでコミュニケーションを図り課題を浸透させることの難しさなどがあげられた。

学習指導要領解説を読むと、深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要であると書かれている。指導案を持ち寄ったところ、指導案作成のときには「見方・考え方」というところを意識していなかったが、どの指導案からも「見方・考え方」につながるものが盛り込まれていた。

これから、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進め、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指していきたい。



( A ) 中学校

( 技術 ) 分野

学習題材 ( 材料と加工に関する技術 )

( 1 ) 年

学習内容 ( 生活に役立つ木製品の製作 )

### I 題材の目標

機能性やデザインを考えて工夫した作品作りに挑戦する。

### II 学習の展開

学習過程	学習活動と内容	教師の指導と留意点	評価場面 (評価方法)
導入	○本時の課題と学習内容を確認する。	・前時の内容をふり返り、本時の学習内容を確認する。	・積極的に説明を聞こうとしている。
学びを深める	○作品の製作	・機能性やデザイン製作について考えさせる。	・考えや気づきを作業に生かしているか。
	<p>埋め釘に挑戦する</p> <p>①ボール盤を使用して深さ6ミリの丸穴をあける。 ②ボール盤を使用して釘の下穴をあける。 ③くぎしめで釘を深く打ち込む。 ④接着剤をつけた埋め木を丸穴に打ち込む。 ⑤はみ出した接着剤をふき取り、同付きのこぎりで埋め木を切り落とす。 ⑥埋め木の残部を削る。</p>		
		・修復作業方法や作業の仕方を身につける。	・積極的な取り組みができているか。
まとめる	○作品の片付けと掃除	・次回の連絡をする。	・協力できているか。

評価 ・工夫創造する取り組みに挑戦できたか。

・失敗箇所を修復できたか。

# B中学校

## (1) 本時のねらい

### 〔到達目標〕

- かんなの仕組みやかんな削りを行う方法を知り、木材のかんな削りを適切に行うことができる。
- 部品が最適な寸法になるように加工することができる。
- 作品の表面を仕上げて優しい手触りにすることができる。
- 自分が今やるべき事を理解して行動することができる。

## (2) 本時の展開

学習項目	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点と方法
目標	・学習の目標を知る。	・切断した木材の部品をかんな削りややすりがけをして所定の寸法に仕上げ、表面や切断面を滑らかにすることを知らせる。 ・仕上げる作品、かんなとげんのうを準備する。	
工具の準備	・かんな削りに必要な工具を準備する。		
かんな削りについての確認	・かんなの各部の名称、構造、切削の原理、安全なかんな削りについて確認する。 ・かんな身の抜き差しの方法を知る。 ・安全な取り扱い方について知る。 ・かんな身の刃先と裏金の調整の仕方を知る。	・かんな身、裏金をかんな台から外し、各部の名称、役割について説明する。 ・かんな身の抜き差しの方法、かんなの置き方を説明する。 ・かんな身の刃先は鋭利なので、刃先を触らせない。 ・かんな身の刃先の調整と裏金の調整の仕方を演示し調整具合を確認させる	[知識・理解] ・かんな削りの方法についての知識を身に付けている。 (学習ノート)
かんな削りの練習	・かんな削りの仕方を知る。	・かんな削りの仕方やかんな削りに適した箇所を説明し演示する。	[技能] ・かんなを、正しい方法に基づいて適切に使用することができる。(授業中の活動、実習)
部品のかんな削り	・部品のかんな削りを行う。	・安全に注意して部品のかんな削りをさせる。 (かんな削りをしてはだめな場所をしっかりと教える)	
部品のやすりがけ	・かんな削りをしにくい場所はやすりで削る。 ・作品の表面を仕上げて優しい手触りにする。	・仕上がりが寸法に近づいたらかんな削りをやめる。 ・自分の作業進度を理解させ、やるべき事をそれぞれの生徒にアドバイスする。	[関心、意欲] それぞれの生徒が自分が今何をすべきか考えて意欲的に作業に取り組むことができる。
かたづけ	・製作工程表の進度欄にチェックをする。 ・使用工具と材料のかたづけ、清掃活動をする。 ・学習内容をまとめる。	・作業の終了を告げ、今後の問題点の確認を行う。 ・かたづけの指示をする。 ・学習のまとめを行う。	
まとめ			

学習題材 エネルギー変換に関する技術 2年

学習内容 「電気を作る仕組みを知ろう」

I 題材の目標

さまざまな発電方式の特徴と課題を知る。

II 学習の展開

学習過程	学習活動と内容	教師の指導と留意点	評価場面 (評価方法)
出会う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の授業内容を振り返る。</li> <li>・現代社会にとって電気エネルギーは、必要不可欠なものであることを再認識する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の授業で学んだ「さまざまな発電方式」の仕組みと特徴や課題を振替させる。</li> <li>・前回の授業の中で「自分が推奨する発電方式」を選ばせておく。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>A. 原子力発電</li> <li>B. 化石エネルギー発電</li> <li>C. 再生可能エネルギー発電</li> </ul> </li> </ul>	
学びを深める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギーの消費状況と地球環境問題を考慮したうえで、どのような「発電方式」がふさわしいのか、グループ毎に話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1グループの構成は、上記 A. B. C. 各2名ずつ。</li> <li>・司会、記録、発表の役割分担をさせる。</li> <li>・話し合いの進み具合で「環境」「コスト」「需要」の側面からは、どうなるか。話し合いを深めさせる。</li> </ul>	<p>[知識・理解]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな発電方式の特徴と課題についての知識を身につけている。</li> </ul> <p>[創意・工夫]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな発電方式の特徴と課題について理解したうえで、エネルギーの選択ができる。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループの話し合いの結果を発表させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点では、「環境」「コスト」「需要」のすべてをクリアできる発電方式は存在しないことを理解させるとともに、今自分たちには何ができるか、考えさせる。</li> </ul>	

評価

十分満足 ……さまざまな発電方式の特徴と課題について理解をし、今自分たちにできることを言うことができる。

おおむね満足 ……さまざまな発電方式の特徴と課題について理解することができる。

支援を必要 ……さまざまな発電方式の特徴と課題を言うことができない。

( D ) 中学校 ( 技術 ) 分野

学習題材 ( エネルギー変換に関する技術の評価・活用 ) ( 2 ) 年

学習内容 ( 電力会社をどのように選ぶか )

### I 題材の目標

電力会社ごとのメリット・デメリットを知る。

それらを踏まえたうえで、環境的・社会的・経済的側面を総合的に考え、電力会社を選ぶことができる。

### II 学習の展開

学習過程	学習活動と内容	教師の指導と留意点	評価場面 (評価方法)
出会う	電力自由化の概要について伝える。	電力の自由化が実施された時期やその概要について、知っていることを聞く。	発表 (電力の自由化について関心をもっている様子が見られる。)
	東日本大震災を振り返り、様々な発電の光と闇に触れる。	被災者に対して配慮しつつ、東日本大震災について振り返る。また、福島第一原子力発電所が被災したことによる影響を説明し、各発電におけるメリットとデメリットを知らせる。	プリント (各発電のメリットとデメリットを理解している。)
学びを深める	様々な電力会社について調べ、その特徴をまとめる。	コンピュータ室を利用し、電力会社ごとの電気の単価や契約システム、発電の方法などについて着目して調べさせる。	学習態度 (仲間と協力して意欲的に調べ学習に取り組んでいる。)
	まとめ終わったグループから調べたことを根拠として、自分のグループが契約する電力会社を選ぶディスカッションをする。	メリット、デメリットどちらにも着眼点を置いた話し合いができるよう声掛けを行う。	
まとめ	本時の学習の内容を振り返り、次時の発表に備える。	次時、グループごとに調べた電力会社の特徴と電力会社を選んだ理由を発表することを伝える。	

### 評価

- ・電力供給、発電について関心を持ち、意欲的に学習に励んでいる。(関心)
- ・各発電のメリットとデメリットについて理解している。(知識)

( E ) 中学校 ( 技術 ) 分野  
 学習題材 ( 木材加工 ) ( 1 ) 年  
 学習内容 ( 両刃のこぎりで板材を切断しよう )

I 題材の目標

II 学習の展開

学習過程	学習活動と内容	教師の指導と留意点	評価資料 (評価方法)
出会う	板材を切断してみる。 課題を見つける。	両刃のこぎりで板材を正確に切断できない原因を考えさせる。	
学びを深める	よりよい切断の方法を見つける。  班で方法について検討する。	活発な意見交換ができるようにする。 切断作業のポイントを押さえ、問題解決的な学習となるよう、課題を絞らせる。	
まとめ	振り返りシートに相互の評価と感想を記入する。	振り返りシートには、相互評価ができる内容を入れる。	ワークシート 実際に自分が試してみて良かった方法や相互評価しての感想を振り返りシートにまとめる。

評価

( F ) 中学校 技術分野

学習題材 ニンジンの栽培計画 1年

学習内容 冬野菜を夏に育てるための課題とその解決方法を考える

### I 題材の目標

目的とする生物の育成計画に対し、課題設定・課題解決に取り組み、結果を考察する。  
生物育成に関する技術の適切な評価・活用について考える。

### II 学習の展開

学習過程	学習活動と内容	教師の指導と留意点	評価場面 (評価方法)
出会う	ニンジンの特徴と基本的な育て方を調べる 課題の共有 グループ分け	タブレットで調べながら育成計画としてまとめる。 学級全体で課題を具体化し共有する。 活発なコミュニケーションのために4人以下のグループにする。	調べたものを具体的に詳しくまとめられているか
学びを深める	まずは個人で解決方法を考える。 次にグループで設定された課題を解決ができそうな既存の道具や機械を調べる。	実現性にとらわれず、多くのアイデアを出すこと。 いくつかの課題に対する解決方法をグループ内で共有する。	課題に関わる知識をどれだけこれまでの生活体験から引き出せるか。
	環境や制限に合わせて、栽培施設をどう作るかを話し合い、図にまとめる。	グループ内で分担するなどして、それぞれの解決方法を具体化する。	構想を具体的に作る作業を主体的に行う。
まとめ	グループでまとめたものを学級に発表する。	完成したワークシートをタブレットで画像データにし、各グループに送信する。	

### 評価

生物の育つ環境を整備するために、他人と関わりながら様々な課題に主体的に向き合っている。  
限られた条件の中で課題を解決する合理的な手段を、ICTを活用し考え出すことができる。

( G ) 中学校 ( 技術 ) 分野

学習題材 ( イスに使用される材料の価格と特徴を評価する ) ( 1 ) 年

学習内容 ( 使用目的からイスに使用する材料を評価し活用する )

### I 題材の目標

材料と加工に関する基礎的・基本的知識及び技術を確認するとともに、材料と加工に関する技術が社会や環境に果たしている役割と影響について理解を深め、それらを適切に評価し活用する能力と態度を育成する。

### II 学習の展開

学習過程	学習活動と内容	教師の指導と留意点	評価場面 (評価方法)
出会う	本時の流れを説明する  色の異なるイスを3点、画像を紹介する。  紹介した画像3点から優れていると考えられるイスを1点選択する。		
学びを深める	グループになり 教室に置くイスとして最も相応しい色と材料を班で決定する。決定後、各自イスのデザインに取り掛かる。	材料が異なると評価する視点が増えることを伝える。	材料と加工に関する技術の課題を明確にし、社会的、環境的側面などから比較・検討するとともに、適切な解決策を見出している。 (ワークシート) (工夫)
まとめ	参考となる生徒の作品の発表を行う。本時の学習内容を確認後、次時の学習内容を伝える。		

### 評価

材料と加工に関する技術を用いた製作品の機能と構造を工夫するとともに、材料と加工に関する技術を適切に評価し活用している。

( H ) 中学校 ( 技術 ) 分野  
 学習題材 ( Webページの作成 ) ( 3 ) 年  
 学習内容 ( 背景を作ろう )

I 題材の目標

デジタル作品の設計・制作を通して情報の技術の見方、考え方に気付き、問題解決とその過程を振り返り、改善・修正しようとする態度を育てる。

II 学習の展開

学習過程	学習活動と内容	教師の指導と留意点	評価場面 (評価方法)
出会う 導入 10分	本時の内容を知る ・テキストを利用してIEとメモ帳の起動の仕方を復習する。 ・前回学習した body bgcolor と背景 (body background) の違いをプロジェクターを使用して表示する。 ・ホームページ素材集の利用の仕方を指導する。	本時の目標を示す。  著作権について再度触れ、ネット上の素材についての注意を促す。  視覚的に違いを理解させてからどのように変えるかを見せるようにする。	知識 IEとメモ帳の起動ができるか。 (机間巡視やコンピュータ)
学びを深める 展開 25分	・自分のHPの構成を考えさせながら素材集から自分の構成にあった素材を選ぶ。  その他のテキストとのバランスや色合いを考え、決定する。  ・テキストの修正や色の修正などして画面を決定する。	ここで画像の拡張子JPGとGIFならびPINGなども含めて種類を提示させ、何を選ぶことが最良かを考えさせる。  ここで画面のデザインの基本がなされることを確認する。	技能 素材集から適切に画像素材を選んでいくか。 (机間巡視等)
まとめ 15分	自分の作成した背景と他の人が作成した背景を鑑賞して評価し合う。 ここでは代表のものを利用してプロジェクターに表示して行う。	中傷するのではなく、どのように感じるかなど意見が言い合えるように配慮する。  次回の連絡	関心・意欲・態度 他の作品に興味を持ち、自分の作品に関心を持って工夫しているか。 (コンピュータ等)

評価



( ) 中学校 ( 技術 ) 分野  
 学習題材 ( 材料と加工 ) ( 1 ) 年  
 学習内容 ( 設計 )

I 題材の目標

身の回りの課題をモノづくりによって解決していく。設計の基本を押さえ、製図が行えるようにする。

II 学習の展開

学習過程	学習活動と内容	教師の指導と留意点	評価場面 (評価方法)
出会う	製図の仕方を押さえたうえで、自宅など生活の課題を発見する。	家庭科と絡めて話ができるとうい。 ※製図の基本については前回の授業でよく確認しておく。	
学びを深める	必要な製品の設計を行う。生徒同士、先生に説明してみる。最終チェックは教員が行う。	なんでそのサイズにしたのか。その設計で組み立てができるか話し合わせ、説明させ、よく考えさせる。	技・知：製図の基本が抑えられているか。後日設計図を見取る。  意：取り組みについて観察する。
まとめ	次回以降の授業の見通しを持つ。振り返りを記入する。	作業をしっかりと区切り、話を聞かせる。	意・工：後日振り返りから見取る。

評価

( A ) 中学校 ( 家庭 ) 分野

学習題材 ( クレジットカードの長所と欠点は? ) ( 2 ) 年

学習内容 ( グループワークでクレジットカードの長所または短所について追及して発表し、自分の考えをまとめてクレジットカードについて理解する。)

I 題材の目標 クレジットカードの長所と短所を知り利用の仕方について考える。

II 学習の展開

学習過程	学習活動と内容	教師の指導と留意点	評価資料 ( 評価方法)
出会う	・本時の活動内容を確認する。	・グループワークを行うことを確認する。 ・クレジットカードの長所または短所について個人で付箋に書き出し、班ごとに模造紙に付箋をつけていき模造紙にまとめることを確認する。	
学びを深める	・グループに分かれる。 ・個々で長所または短所を付箋に書き出す。	・模造紙、付箋、マジックを各班に配る。 ・グループによって長所を考える班と短所を考える班を指示する。 ・教科書、パンフレットなどの参考場所を指示する。 ・一つの付箋に一つの短所または長所を記入するように指示する。	【関心】 ・付箋に長所または短所をいくつか記入していけるか。
まとめ	・班ごとに話し合い、付箋を同じような内容のものを集め模造紙にはり欠点または長所についてまとめる。  ・班ごとに発表する。 ・発表を聞いて、感想とクレジットカードの利用の仕方についてワークシートにまとめる。	・班長が中心になって、模造紙に同じような内容を集めてはりタイトルをつけていくことを確認する。  ・模造紙にまとめた内容について黒板に張り出し発表する。	・積極的にグループワークに参加できたか。  【知識理解】 ・ワークシートに他の班の人たちの意見を聞いてクレジットカードの利用の仕方、感想についてまとめ理解できたか。

評価

- ・クレジットカードの長所または短所をあげることができたか。【関心】
- ・他の班の人たちの意見を聞いて、クレジットカードの利用の仕方について、ワークシートにまとめ理解できたか。【知識理解】

( B ) 中学校 ( 家庭 ) 分野

学習題材 ( C 衣生活・住生活と自立 ) ( 1 ) 年

学習内容 ( ( 1 ) 衣服の選択と手入れ ( ア ) )

### I 題材の目標

衣服の選択と手入れなどに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得するとともに、生活を豊かにしようと  
し、大する能力と態度を育てることをねらいとしている。

### II 学習の展開

学習過程	学習活動と内容	教師の指導と留意点	評価場面 (評価方法)
体験する	・浴衣の着方を知る。 ・浴衣を着る。	・身頃のあわせ方や男女の着装の違いについて説明する。 ・机間巡視し、生徒へアドバイスを する。	・浴衣の着方について理解し ているか。
学びを深 める	・浴衣と洋服との違いを考え る。	・いろいろな生活する上での動作を することによる変化について考 えさせる。 (日常の動作による変化) ・腕を上げる ・歩く ・前かがみになる ・座る	・浴衣を着て、洋服との違い を確認できたか。(学習ノ ート)【知】 ・いろいろな動作を試し 洋服との違いに気付いた か。(学習ノート)【知】
まとめ	・浴衣を着た感想や印象を、学 習ノートに記入する。 ・和服を含め、これからの衣生 活で、和服の要素を取り入れ た、個性豊かな着装を実践す る。 ・次の授業内容を確認する。	・意見・感想を学習ノートに記入さ せ、浴衣と洋服の違いをことばで 表現させる。 ・次の授業内容について知らせる。	・浴衣を着た印象について、 意見が書けているか。洋服 との違いをことばで表現 できたか。(授業時発言内 容)【知】

おおむね満足できる (B)

十分満足できる (A)

努力を要する生徒への手だて

生活や技術について の知識・理解	日本の衣文化について 考えることができる	日本の衣文化について風土を 含めて考えることができる	絵や図を用いて、日本の衣文化 について説明する
---------------------	-------------------------	-------------------------------	----------------------------

評価

C 中学校 【家庭分野】  
 学習題材 住生活と自立 1年  
 学習内容 「災害に備えた生活について考えよう」

I 題材の目標

災害に備えて、生活を工夫することができる。

II 学習の展開

学習過程	学習活動と内容	教師の指導と留意点	評価場面（評価方法）
出会う	・自分の地域で起こり得る自然災害を挙げる。	・最近起きた災害のニュース等を挙げながら発問をする。	
学びを深める	・自分の家は災害への備えができていないか振り返る。  ・班ごとに災害による被害を最低限におさえる対策を考える。 ①部屋の中の安全対策 ②非常時に必要なもの  ・発表する。	・技術・家庭ノート（P60）の項目をチェックしながら振り返りをする。  ・模造紙と付箋を各班に用意する。  ・机間指導を行い、対策を考えることができていない班には声かけをする。  ・実際に災害時に役立つものの紹介をする。（新聞紙を利用したコップなど）	ノート【関心・意欲・態度】  観察【関心・意欲・態度】  発表【工夫・創造】
まとめ	・これから災害に備えて自分にできることを考える。	・ノートと模造紙の回収を行う。	ノート【関心・意欲・態度】

評価

本時の観点	おおむね満足できる (B)	十分満足できる (A)	努力を要する生徒への手だて
ア 生活や技術への関心・意欲・態度	災害に備えた住まい方について考えようとしている。	災害に備えた住まい方について自分の生活に結び付けて取り組もうとしている。	具体的な災害の例を提示することで、考えさせる。
イ 生活を工夫し創造する能力	災害への安全対策について考え、工夫している。	災害への安全対策について家庭で実践できる方法を具体的に考え、工夫している。	
エ 生活や技術についての知識・理解	災害への備えについて理解している。	災害への備えについて、家族の立場も踏まえて理解している。	

( D ) 中学校 ( 家庭 ) 分野  
 学習題材 ( 災害に備えた住まい方について考えよう～防災学習～ ) ( 1 ) 年  
 学習内容 ( 災害についての図書による調べ学習 )

I 題材の目標

いつ襲ってくるかわからない大地震やさまざまな災害について、各自の興味を持ったテーマで調べ学習を行い、実際に災害が起きたときに対応できる知識や意識を身につける。

ライブラリーナビをつくる。

II 学習の展開

学習過程	学習活動と内容	教師の指導と留意点	評価場面 (評価方法)
出会う	大地震が襲ってきたら どうなるのか (DVD)	東日本大震災当時未就学児だった生徒へ、国内で実際に起こった災害であるという認識をさせる	ワークシート (印象に残ったことばを 記入し調べ学習のテーマを 選ぶ)
学びを深める	図書室 テーマごとに6つの班を配置し、自分のテーマ席に着席し、図書調べ学習を行う (情報カードに記入)	図書は効率図書館より借りる 引用や参考にした図書の資料名、著者名、出版社名を記入させる	より多くの情報が集められるように指導する
まとめ	防災のミニリーフレット (ライブラリーナビ) を作成する。調べたテーマについてのエキスパートになる  作成したライブラリーナビを元に教室でまとめ学習を行う。 教室の班で着席し、友達のライブラリーナビと交換して読み合い、評価をし合う。	防災学習についてのまとめ  友達の作成した資料を読むことにより、別のテーマの内容について知る。 また、資料のまとめ方などを参考にする	調べた内容、情報カード量 見やすさ、丁寧さ

評価

災害に備えて、心技体で備えができる

( E ) 中学校 ( 家庭 ) 分野  
 学習題材 ( 幼児との関わりを考える。 ) ( 3 ) 年  
 学習内容 ( ふれあい体験 )

I 題材の目標 幼児と触れ合う体験を通して幼児とのよりよい関わり方を考える。

II 学習の展開

学習過程	学習活動と内容	教師の指導と留意点	評価資料 (評価方法)
出会う	<p>事前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の発達と遊び方の変化について知る。</li> <li>・体験の諸注意 (心構え、身だしなみ等)</li> <li>・体験についての自身の課題・目標を考える。</li> </ul>	<p>自身の幼児期について十分に振り返らせる。</p> <p>安全面についてきちんと指導する。</p>	ワークシート
学びを深める	<p>体験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>移動 (10分)</li> <li>近隣幼稚園で交流 (30分)</li> <li>移動 (10分)</li> </ul>	<p>巡回し、観察とともに幼児との積極的な交流を促す。</p>	体験の観察
まとめ	<p>事後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レポートに体験で実践したことについてまとめる。</li> <li>お礼として幼児の玩具を考案し制作したものを寄贈する。</li> </ul>	<p>振り返る観点を明確に示すようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート</li> <li>・玩具づくりの様子</li> <li>・制作品</li> </ul>

評価

( F ) 中学校 家庭分野

学習題材 肉の調理を工夫しよう 2年

学習内容

肉の調理上の性質を理解し、ハンバーグの作り方のポイントとなる点を調べ、実習に活かすことができるようにする。

I 題材の目標

肉や野菜などの食品の選択や調理に関する知識や技術を身に付け、自分の食生活をよりよくしようとする態度を養う。

II 学習の展開

学習過程	学習活動と内容	教師の指導と留意点	評価場面 (評価方法)
出会う	ひき肉を使った調理で、ハンバーグの調理上のポイントや工夫を調べる。	教科書の手順にそって、説明の中でのポイントの根拠や調理実習で実際に工夫できることなど、調べる項目が広がり過ぎないようにワークシートを工夫する。	
学びを深める	グループで調べる 2台のタブレットを使って項目ごと分担しながら調べる。 調べたものをグループで、ワークシートにまとめる。 グループでまとめたものを発表し、全体で共有する。	4人グループにタブレットを2台配布する。  机間指導をして、どの項目にもポイントや工夫があるようにする。 発表時にまとめたワークシートが全体に見えるようにしながら説明できるようにする。 発表の終わり毎に、発言を繰り返して、確実に全体で共有できるようにする。	調べたものを詳しくまとめることができる。  発表に関心をもって聞き、必要に応じてワークシートに付け足している。
まとめ	グループ発表での意見について、栄養教諭からの助言を聞き、さらにひき肉の調理やハンバーグ作りへの理解を深める。	グループ発表でのポイントとなる質問を選択し、栄養教諭に質問する。 次回の調理計画にポイントや工夫を活かすようにする。	調べたことや、助言からひき肉の調理について、自分なりに工夫を考えている。

評価

ひき肉の調理上性質や、ハンバーグ作りの工夫について主体的に調べることができる。

調べたことから、自分なりに調理実習での工夫を考えることができる。



( G ) 中学校 ( 家庭 ) 分野  
 学習題材 ( 幼児の生活習慣 ) ( 3 ) 年  
 学習内容 ( 幼児の基本的生活習慣の定着 )

I 題材の目標

幼児の生活習慣の形成の重要性とそれを支える家族の役割や、信頼関係を築くことの大切さを理解することができ、自分自身の成長について考えることができる。

II 学習の展開

学習過程	学習活動と内容	教師の指導と留意点	評価場面 (評価方法)
出会う	・映像「幼児の生活と家族」の2歳と5歳の発達を鑑賞	・食事、排せつ、着脱衣、清潔の4つの視点を重点的に見るように指導してから鑑賞を始める。 (睡眠に関しては教科書にて説明する)	・視点のチェックを入れているか(ノート・関心)
学びを深める	・教科書の図を見ながら、2歳と5歳の違いをグループで挙げていく。  ・5歳の基本的生活習慣の定着には何が必要かを話し合う。	・グループ用のシートを用意し、まとめることができるようにしておく。	・今までの体の発達と心の発達を見て要点を挙げることができる。(シート・工夫)  ・ノートに幼児の家族の支えについて書くことができる。 (ノート、シート・理解)
まとめ	・幼児の発達にはどのような環境が必要なのかまとめる。	・それぞれのグループのシートをクラスのまとめとして板書(スクリーン可)して要点をまとめていく。	・幼児期に生活習慣を定着することの重要性を考えることができる。  ・自分の成長には多くの人と環境が関わってきたことを考える。

評価

映像教材を通して幼児の生活習慣の定着を観察することができ、履修した幼児の体と心の発達を活用したグループ活動によって、ノートおよびグループシートに工夫してまとめることができる。

( H ) 中学校 ( 家庭 ) 分野  
 学習題材 ( 食の学習 食品の選択 ) ( 2 ) 年  
 学習内容 ( 食品の安全について考えよう )

I 題材の目標 加工食品の表示の意味について理解している。  
 用途に応じた食品の選択について収集・整理した情報を活用して考え、工夫して  
 いる。

II 学習の展開

学習過程	学習活動と内容	教師の指導と留意点	評価場面 (評価方法)
出会う	<p>本時の内容を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに記名する</li> <li>・加工食品の表示を示す</li> <li>・原材料から食品をあてる</li> <li>・同じ食品でも原材料が異なる例を挙げる</li> </ul>	<p>本時の目標を示す</p> <p>ワークシート配布</p> <p>加工食品 (拡大) 表示を貼る</p> <p>原材料カードを示す (5種類ほど)</p> <p>夏の冷菓「アイス」を例に挙げる</p> <p>何が違うのかを考えさせる</p>	<p>知識・理解</p> <p>価格や内容量のみではなく、          原材料の違いや安全性につ          いても考えを深めているか</p>
学びを深める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原材料には食品添加物も表示されている</li> <li>・食品添加物の種類と働き</li> <li>・なぜ、食品添加物が必要なのか考え、意見を発表する</li> <li>・加工食品の表示に戻り、原材料以外の表示についても、その意味を知り、なぜ表示が必要かを考える。</li> </ul>	<p>食品添加物の種類と働きについて、教科書ページを参照する</p> <p>安全性についても考えさせる</p>	
まとめ	<p>賞味期限と消費期限</p> <p>アレルギー表示</p> <p>内容量 値段など展開①②</p> <p>で触れていないことを話題にする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめと振り返り</li> </ul>	<p>最初の表示をみて、まだ触れていない項目についても、その意味と必要性を考えさせる。</p> <p>今まで気にしていなかったこと、気付いたこと、これから気を付けたいことを言葉にして、記入させる。記入できていない生徒に声をかける。</p>	

評価

( I ) 中学校 ( 家庭 ) 分野  
 学習題材 ( 幼児の生活と遊びを知ろう ) ( 3 ) 年  
 学習内容 ( 保育実習 (幼児とのふれあい体験) )

I 題材の目標

幼児の施設を訪問し、幼児との触れ合い活動に関心を持って取り組む。  
 幼児の心身の発達に応じて遊び方を工夫できる。

II 学習の展開

学習過程	学習活動と内容	教師の指導と留意点	評価場面 (評価方法)
出会う	幼児とのかかわり方 ・幼児の写真などを見せ、イメージなどを話し合う。  幼児の心身の発達 ・幼児とのふれあい体験の流れを知る。  ・幼児への接し方を考える。	・自身の幼少期を思い出させたり、家族に聞いてもらったりするなど、事前に準備させておく。  ・課題、目的を考える。  グループで意見交換 ・気を付けることはどんなことか	(関心・意欲) 幼児への関心を持たせる ・発言など  (知識) ・ワーク  (工夫) 自分なりに考え、工夫する
学びを深める	幼児の施設を訪問する ・計画に沿って幼児と触れ合う。  ・実習後に気づいたことや感想をまとめる	・幼児と楽しく遊んだりできるように見守る。 ・安全には十分注意する。  ・生活に生かせることをまとめさせる。	(工夫) 学習したことを生かして自分なりに考え、工夫する 実習中の態度 (技能) 幼児の遊びや遊び道具、心身の発達について観察し、整理できる ・ワークシート、レポート
まとめ	・幼児とのふれあい体験でお世話になった方に手紙の形でまとめる。 ・レポート ・友達と発表しあう。	・印象に残ったこと、考えが変わったことを思い出させる。(変わったのはなぜか?)	(工夫) 幼児とのふれあいを通して今後生活に生かしていくことができるワークシート

評価

区番号

11

## 平成 30 年度 港北区技術・家庭科研究部会 研究報告

### 1 研究主題

家庭分野「授業の充実に向けて～生活の課題と実践の取組について～」

### 2 研究主題設定の理由

新学習指導要領では、『学習した知識・技能を実生活で活用するために、家庭や地域社会と連携を図った「生活の課題と実践」に関する内容を充実する。』としている。各学校での授業実践の内容や成果と課題等を共有することを通して、それぞれが授業改善をし、学習効果の向上を図るためにこのような主題を設定した。

### 3 研究の経緯

「生活の課題と実践」の具体的な内容についてアンケートを実施し、その内容について情報を共有し、授業改善について協議した。

### 4 研究内容（スペースの関係で題材と指導の工夫の一部のみ掲載）

#### A校 幼児のためのおやつをつくろう

- ・学校図書館と連携し、本の紹介をする。
- ・グループで計画や実践について発表し、助言し合う時間を設定する。

#### B校 家庭内事故を防ぐための手立てを考えよう

- ・自分の家でどのような事故が起こりえるか、家族と相談させる。
- ・事故防止のポスターを作り、家庭で掲示させる。

#### C校 生活の課題と実践

- ・3年間で学んだことを振り返り、課題を設定させる。
- ・家族や友人からの意見を聞き、取組の改善点についてもまとめさせる。

#### D校 世界の子どもの現状を知ろう

- ・自分の実践を発表し、質問を受けて改めて改善点に気がついた場合は、レポートへの記述を加えさせる。
- ・保護者会や文化祭時に掲示して学習成果を披露する。

#### E校 魚を使った調理の工夫と実践をしよう

- ・過去のレポートの紹介や見本を掲示する。

- ・学級通信に課題を載せてもらい、家庭の協力を求める。
- F校 環境に配慮して洗濯を工夫しよう
  - ・保護者からのコメントを記入してもらおう。
- G校 地域の食材を生かした調理の工夫を実践しよう
  - ・実際の売り場を観察し、表示等に目を向けさせる。
- H校 環境に配慮した調理の工夫と実践をしよう
  - ・環境に配慮した場合としなかった場合とで実践させ、ゴミの量、加熱時間、おいしさ等の視点で比較させる。

## 5 まとめと考察

- 「生活の課題と実践」では、学習の見通しを持たせるために、問題解決的な学習の流れを確認したり、過去に設定した課題や実践レポートの例を紹介したりするなど、生徒が学習の過程や結果をイメージできるようにする。また、学習の過程や結果を振り返り、成果や課題を明確にするために、小グループでの話し合い活動を効果的に取り入れられるようにする。話し合い活動や、個人で再考する時間を確保すると、学びが深まる。
- 学級通信に課題を載せてもらうなどして、家庭の協力を求めたり、保護者から意見をももらったり、成果物であるポスターを家庭に掲示し、継続的に家族と協働しながら実践を行ったりと、家庭との連携を図る。そうすることで、知識と技術の定着を図るとともに、学習した内容を深化・発展させたり、生活の価値に気付かせたり、生活の自立や将来の生活への展望をもたせたりすることが期待できる。
- 「生活の課題と実践」では、生徒一人ひとりの課題や実践が異なり、レポートなどの成果物を評価するのに時間がかかる。よりよい生活の実現に向けて生活を工夫し創造しようとする資質・能力を効率よく適切に評価する方法を探っていくのが今後の課題である。

## 平成 30 年度 港北区技術・家庭科研究部会 研究報告

### 1 研究主題

「プログラミング教育における区内中学校の連携及び小中連携」

### 2 研究主題設定の理由

今後の中学校でのプログラミング教育の課題や方向性を考えるうえで、中学校間の情報共有も必要だが入学以前に学習した内容を把握し、中学校での授業内容を精選するため小学校からの情報をもとに授業内容の骨子を検討する。

### 3 研究の経緯

多くの学校がプログラミングロボット（以下、プロロボ）を使用したプログラミング学習を行ってきたが、研究授業を行った中で中学校ではプログラミングから制御の流れが行われているが、小学校でのプログラミング教育が見えず小中のつながりを考えるうえで、小学校の内容を知り今後の中学校でのプログラミング教育の課題や方向性を考えていきたいので、アンケートを行った。

### 4 研究内容（アンケート）

- (1) プログラミング教育を今年度実施していますか。  
実施している。42%、実施していない 58%
- (2) 行っているのはどの教科・領域ですか。  
算数、総合、その他（図工、家庭科、音楽）
- (3) プログラミング教育を行っているのはどの端末ですか。 パソコン、タブレット
- (4) (1) で実施していると答えられた方はその内容を具体的にお書きください。

- ・インターネットの教材プログラムを使った公倍数の学習
- ・プロゼミによるプログラミング全般
- ・「雲のプログラミング教育」のスクラッチの基本学習（講師来校）
- ・プログラミングゼミを使った学習、アーテックのロボット学習
- ・ご飯の炊き方（家庭科 6年）キャラクターを動かす（図工 2年）  
多角形（算数 6年）作曲（音楽 4年）

- (5) プログラミング教育を行う予定はありますか。 未定 58%
- (6) プログラミング教育を行う予定なのはどの教科・領域ですか。  
算数、総合、その他（理科）
- (7) プログラミング教育を行う予定なのはどの端末ですか。 パソコン、タブレット

## 5 まとめと考察

今回、小学校においてプログラミング教育を行っているか、というアンケートを近隣の小学校に送ったところ多くの返信をいただいた。プログラミング教育を行っているのは42%であり、内訳は算数、総合であった。また、使用している端末はパソコン、タブレット（複数回答あり）、実施している内容は、インターネットの教材プログラムを使った公倍数の学習、プロゼミによるプログラミング全般、「雲のプログラミング教育」のスクラッチの基本学習（講師来校）、プログラミングゼミを使った学習、アーテックのロボット学習であった。

算数や科学的な事象に対する授業が多いのは、変数を代入することができる、順序が決まっておりシステムとして整っているなどが背景にある。数字や事象として扱うのではなく、細かな値を変更させながら、結果を視覚的にとらえることが出来るという点で非常に学習教材として適していると考えられる。しかし、プログラミング教育の目的は、論理的な思考力の育成であり、これらの教材はどちらかという、視覚的なイメージを補うための補助教材であり、直接的に論理的な思考力の育成につながっているとは考えづらい。

そういう点においては、ロボット学習は非常に優れていると考えられる。自分で目標を持って課題に取り組み、さらにその結果がデータとしてだけではなく、現実の世界に“ロボットが動く”という形でフィードバックされることは子どもたちにとってもわかりやすく、成果を感じ取りやすい。プログラミングとして、このコードが間違っているというよりも、この動きをしているから間違っている、という指摘を教師側がしやすいという点も指導上において優れている。

また、実施していない小学校においても、来年度から行う予定と回答された学校がある。これからプログラミング教育を実施していく学校はますます増えていくと推測されるが、どうしても壁になる問題がある。

まずはハード面についての問題である。学校にあるパソコンやタブレットはスペック的にかなり低いものが多く、ネットワークを通じての同時にアクセスや、同時に起動したりなどの複数台を同時に操作するというアクションに耐えられる環境はかなり少ない。また、タブレットに関しては人数分そろっていないということもあり、効率面においてもあまりよくない。理想的な環境は、一人一台、もしくはコンピューターームに人数分のタブレット、という状況だが、それは難しい。また、市から学校に導入されるタブレットはiPadであり、iPad単体で運用する分には申し分ないが、学校のパソコン（教師用）などと連携する分には非常に相性が悪い。iPadはiOSという独自OSであり、学校のパソコンに導入されているWindowsOSとデータのやり取りを行う際には専用ソフトが必要であり、互換性が良くない。AndroidOSのタブレットであれば値段も半分以下で、データのやり取りも非常に容易である。

次にシステム面についての問題である。昨今、小学校現場において求められるものは非常に多く、プログラミング教育もその例に漏れない。プログラミングは一つの専門知識、分野であり、均一の教育の質を学校レベルどころか、学級間でさえ同一のものを提供するのには難しい。専科性を設けるのも一つの手だが、小学校教員免許と技術科、もしくは数学科の教員免許を同時に取得し、かつ小学校に勤めるというケースでしか為し得ない。授業内で扱うのがビジュアルプログラミングと言え、専門的にコードとしての知識を得ていたほうが子どもの深い学びにつながるだろう。一斉授業、特に小学校で行う際には、子どもの人数にもよるがかなり難しいように感じる。

現在、港北区の中学校では多くの学校がプログラミング教育として、プロロボを導入している。導入の理由は、①パソコンへのインストールが容易（ネットを介さない）②フローチャートによる視覚的なプログラミングであり、プログラミングの専門的な知識が無くても操作できる③結果を現実の世界に“動く”という形でフィードバックできる④授業内で完成する、という4点である。授業内でしか使わず、実用性がないという点に関しては、学校側が買い上げ、生徒に貸し出すという形で解決している学校もある。実際にコードという形で書かせるというのが、プログラミングの能力を高めるという観点だと最も効率が良いが、プログラミングは言語であり、明確な言語規則がある。そのルールを理解し、噛み砕き、実際に適用するというのは大人でも難しい。日本語で入力するプログラミングも存在はするが、やはりこれも明確な言語規則が存在し、授業内で説明、理解、実装が非常に難しく、現実の世界に還元しにくい。

以上のことから、小中学校で連携してプログラミング教育を行う際には、タブレットやパソコンといったハード面を充実させただけで、小学校の教員に対しては実習込みの研修を行う、またはプログラミング科としての専科を設けるなどして、専門性を高めたい。そのうえで子どもの発達段階を理解し、小中のどのタイミングでどのような論理的な思考力を身につけさせたいかを考え、義務教育九年間としての育成計画を立て、実施していくことが大切だと考えられる。



区番号

12

## 平成30年度 緑区技術・家庭科研究部会 研究報告

1 研究主題 新学習指導要領を見据えた学習題材の検討

2 研究主題設定の理由

現在、新学習指導要領の全面実施に向けて移行期間である。実施に向けては、「授業改善」に係る視点と「教育課程の編成」に係る視点の両面から研究を進める必要がある。なかでも、新学習指導要領が求める授業改善の本質は、児童生徒の実態、指導の内容に応じ「主体的・対話的で深い学び」の視点から教師自身が自らの専門性を発揮して創意工夫を凝らした授業改善を図ることにある。

そこで、緑区では、現在、授業で扱っている学習題材を検討することにより、新学習指導要領のスムーズな実施に向けての手がかりとし、今後の授業改善につなげていきたい。

3 研究の経緯

5月 区研究部会にて研究主題の設定、研究

6月 区研究部会にて研究協議

区研究計画用紙提出

9月 区研究部会にて研究協議

11月 区研究部会にて研究まとめ

12月 区研究部会にて年度末反省

4 研究内容

**技術分野** 新学習指導要領

A：材料と加工の技術 B：生物育成の技術 C：エネルギー変換の技術 D：情報の技術

学年	領域	キット・題材	業者	使いやすさ
1	A	ミニウッドストッカー	MAKING	自分で考え製作するため、工夫の観点を評価しやすい。また、自分自身で実力を把握してから作品を製作するため、無茶な作品になりにくい。
1	A	ひのきセレクション	スーパーキング	自分で設計させたいが、難しい場合は設計図のサンプルを参考にすることができる。

**家庭分野** 新学習指導要領

A：家族家庭生活 B：衣食住の生活 C：消費生活と環境

学年	領域	キット・題材	業者	使いやすさ
1	B	袋づくり		布の色柄を10種類から選択できる。また、形や大きさのバリエーションも多く、難易度があるので小学校からの腕前を考えさせられる。
2	B	バルギーバッグ	クロッサム	生徒の力量によって、難易度を変えることができる。また、作品に工夫を取り入れやすいため、意欲的に製作しやすい。

5 まとめと考察

技術分野、家庭分野ともに生活や技術に関する実践的・体験的な活動において、どの題材(キット)を用いるかは重要である。生徒の意欲を引き出し、かつ課題を設定し、解決策を構想し、製作図や作品等に表現し、実践を評価するからである。生徒が主体的に取り組むためには、まず生徒の実態を把握する必要がある。例えば、加工の技術の際に、練習用の板を用いて生徒自身が自らの技能を知ることが、作品の仕上がりに影響し、見通しをもって主体的に取り組むことができるかにも関わってくる。また、対話的で深い学びの視点から、ICTを活用して、作品のよさや課題を可視化し、班の中で意見を共有し、互いに考えを深めるなど、自らの考えを深める学びの場を意識して、教師が手立てすることで深めることができる。単に、課題や作品の完成にとどまらず、課題を通して「主体的・対話的な深い学び」の実現を目指して今後も研究を続けていきたい。

※※※※※※※※※※ 以下削除 ※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

原稿のみの場合は、2頁程度でお願いします。

1行40文字36行 余白 上35mm下30mm左右30mm(Wordの標準設定)を目安に作成してください。

## 平成30年度 青葉区技術・家庭科研究部会 研究報告

1 研究主題 「安全かつ効率的に授業を行うための教室づくり」

2 研究主題設定の理由

青葉区では、昨年一昨年と同じ研究主題に沿って、学校訪問を通して、各学校の特別教室での工夫している点や改善点等の意見交換をしてきた。今年度、さらに意見の交換をしていく中で、各学校で困っていることや問題になっていることが多く出てきた。そこで、各学校における特別教室の現状と課題を集約し、まとめることとした。

3 研究の経緯

第1回 5月10日（木） 各学校情報交換 研究テーマ決定

第2回 6月27日（水） 学校訪問〈もえぎ野中学校〉

木工室、調理室、被服室見学

定期テスト持ち寄り

情報交換

アンケートの実施

夏季休業

アンケート回答、集約

第3回 11月6日（火） 授業参観 美しが丘中学校 高津智哉 教諭

研究討議

4 研究の内容

アンケート項目

特別教室	備品や施設の状況	冷暖房	給湯器	問題点	課題
木工室					
金工室					
PC室					
調理室					
被服室					

アンケート集約

冷暖房・給湯器設置状況

〈青葉区12校〉

冷暖房設置状況 / 12校				給湯器設置状況 / 12校			
木金工室	PC室	調理室	被服室	木金工室	PC室	調理室	被服室
1/12	11/12	6/12	2/12	2/12	0/12	9/12	1/12

## □ 各施設における課題（一部抜粋）

### 木工室、金工室

- エアコンがないので夏はかなり厳しい。
- 全く使用していない旋盤や丸のこ盤など床に固定されていて不便。
- 手元を拡大することが難しい。
- 教室が狭く、もう少しゆとりがほしい。
- プラグの位置がバラバラで、作業がやりづらい。
- 古い機械が置きっぱなし。コンセントが少ない。

### PC室

- 狭いので、備品等の置き場所に困る。隣との距離が近く、圧迫感がある。
- 床を業者により、木でふさがすが、すぐに穴があく。
- プリンタがインクジェットなので3年でヘッドの交換。カラーレーザーにしてほしい。
- 転入生が入り、41名在籍のクラスのPCが一台足りない。

### 調理室

- 被服室と棟が異なるので、遠い。
- 冷房（エアコン）が来年度（平成31年度）設置。早くしてほしい。
- シンク内の角度のせいか、水の流れが悪く、きちんと排水されないところがある。
- 排水管が古く、去年は水漏れもあった。
- 包丁、まな板の衛生面で不安がある。使用前は必ず熱湯消毒を行っている。
- 湯沸かし器がないので温水が使えない。水質検査はしているが臭い。
- お湯が出ない。洗濯機がない。調理台とは別の試食台がほしい。

### 被服室

- 夏場、エアコンがないためアイロン等も使用する時は、室温がさらに上昇して、教室環境が悪くなる。
- 古いミシンの購入時期が同じ（平成11年）なので、次々不調が出る。
- 作品を収納できる棚がない。（棚の上には安全上置けない）。
- 担当者によっては、使うものもあるかもしれないので、捨てきれない。
- アイロン用の場所の確保が難しい。
- 作業でチョークの粉がつく

## 5 まとめと考察

今回のアンケートを通して、どの学校も多くの課題を抱えながら、日々の学習を行っていることの再確認ができた。特に、ここ数年の異常気象の中で、夏場の冷房のない特別教室での授業。また、調理室で給湯器の設置はあるが、一か所のみであったり、熱湯しか出ないなど、対応に苦慮する事案も報告された。安全で効率的に授業を行うためには、教室環境の改善が急務であると感じた。これからも新学習指導要領実施身に向けて、生徒にとってよりよい学習環境をつくるため、情報交換の中で、工夫改善方法や対応を検討していきたい。

## 平成30年度 都築区技術・家庭科研究部会 研究報告

### 技術分野研究報告

#### 1 研究主題

3年次の情報分野における評価・評定について

#### 2 研究主題設定の理由

3年次の評価をつけるためには、1，2年次に比べ授業時数が少ないため、生徒一人ひとりの評価資料をたくさん集めることが難しい。特に、夏休み前に評価をする必要がある学校は、さらに難しくなる。そこで3年次の評価をするにあたり、どのような工夫しているか知りたいと考え、このような研究主題を設定した。

#### 3 研究の経緯

7月 研究主題の設定，アンケート項目の決定

8月 アンケート集約，区領域研究会での意見交換

9月 まとめ，考察

#### 4 研究内容

まず初めに、各学校の状況を把握するために、アンケートを実施した。

その中で、2期制か、3期制かによっても評価を行う時期が異なるため、そのことを踏まえて、研究協議を進めていくことになった。調査の結果、2期制の学校は5校、3期制の学校は3校。今年度は、3年生で情報領域を履修している学校が多いため、今年度は、情報領域の評価を中心に研究を進めることにした。どの学校も最初の評価まで、授業時数が少ないため、評価資料を集めることに苦労していることがわかる。その点を考えて、他の領域を選択している学校もある。情報領域の場合、簡単な技能を含む課題を設け、その達成度合いを評価するように工夫していることがわかった。また、ほとんどの学校で学習記録カードなどを取り入れて、学習に対する生徒の意欲を確認していた。

#### 5 まとめと考察

技術分野と家庭分野を隔週で授業を行い、授業時数が少ないことは変えようがないから、評価資料をどう集めるかが重要となる。どの領域を選択するにしても各学校とも評価資料を集めるためにかなり苦労しているのが現状である。情報領域では、もともとの技能にも大きな差があるので、校外学習をテーマにプレゼンテーションの資料作成やアクチュエータを利用した教材など課題を工夫することによって評価資料を集める努力をしていた。また、生徒の学習意欲を図るためにほとんどの学校で授業の振り返りシートを取り入れられている。情報領域の評価を行うことは、形が見えにくい分、研修を深める必要があると感じられた。

# 都筑区家庭分野研究報告

## 1. 研究主題

高齢者との関わり方について

## 2. 研究主題設定の理由

新学習指導要領では、少子高齢化社会の進展に対応して、家庭生活と地域の関わりの中で高齢者の内容が新設された。高齢者の介護の基礎に関する体験的な活動ができるよう留意すること、高齢者の身体的特徴についても触れることが求められているが、具体的にどのような方法で学習することができるかについて、情報交換したいと考えこの主題を設定した。

## 3. 研究の経緯

7月 アンケート調査項目の決定、アンケート調査の実施（8校）

9月 アンケートの集約、区授業研究会での意見交換

12月 報告書作成・送付

## 4. 研究内容

幼児との触れ合い体験について、アンケートを行った。

高齢者の介護の基礎に関する体験的な活動への取り組みを調査したところ、高齢者に中学校に来てもらう予定は2校、生徒同士でペアを組むなどして介助を疑似体験する予定が6校であった。

また、ビデオ教材を視聴することで学習を補ったり、長期休み等に親戚や近所の高齢者と触れ合う宿題を出すといった解答も多かった。

高齢者の身体的特徴を疑似体験する方法としては、社会福祉協議会などに相談し、足のひざのサポーターや腰のサポーター、重り、車いすや杖、緑内障・白内障体験メガネなどを貸し出してもらっての疑似体験が考えられる。介護食の調理・試食などを行うことも考えられる。

## 5. まとめと考察

取り組みを行うにあたっては、様々な問題点・不安点があげられた。

介護施設を訪問したり高齢者に学校に来てもらって体験的な活動を行うことの重要性は認識しながらも、受け入れ可能な高齢者施設の確保、授業時数の確保の面から難しく、家庭科だけでなく学校全体のサポートが必要との意見が多かった。また、スロープやエレベーターのないバリアフリー化されていない学校では受け入れることが物理的に困難との意見もあった。また、高齢者のプライバシーや、安全面・衛生面の問題も考えられる。教員側の介護の専門的な基礎知識不足も懸念されるため、研修の機会が期待される。

今年度の調査研究結果を来年度に引き継ぎ、さらに家庭科の授業の向上に努めていきたい

区番号

15

## 平成 30 年度 戸塚区技術・家庭科研究部会 研究報告

### 1 研究主題

新教育課程に向けた各校の取組

### 2 研究主題設定の理由

新学習指導要領が提示され、今後のカリキュラム編成作業や教室環境整備などスムーズに移行できるための研究をおこなう。

### 3 研究の経緯

- ・ 各校へアンケート配布（7月）し内容を集約、情報交換をおこなう。
- ・ 研究授業では、新学習指導要領に提示されている〈(5)生活を豊かにするための布を用いた製作〉を取り入れた授業を行い、協議をおこなった。

### 4 研究内容

新教育課程に向けて次の（1）～（2）の項目について研究協議をおこなった。

#### （1）教具の準備

技術分野：双方向性のあるコンテンツのプログラミング教材（Arduino 又は microbit、CAD ソフト）の購入検討。

家庭分野：高齢者の疑似体験キットや蒸し器の利用、活用。消費生活と環境では、消費生活センターで悪質商法に関するリーフレットの活用

#### （2）教育課程の編成

技術分野：プログラミング教材は、小学校の学習状況を収集、適切な時期を選定する。

家庭分野：保育園、幼稚園、高齢者施設の利用拡充と温野菜のゆでから蒸すことに変更主体的・対話的な深い学びを目指して、グルール学習を多く設定、ジグソー学習などの活用と工夫を図る。

現在実施している教育課程をベースに、「資質・能力」と「三つのつながり」を明確にする。



## 5 まとめと考察

### 〈技術分野〉

- A 材料と加工の技術：キャビネット図は必修ではない。
- B 生物育成の技術：作物・動物・水産のいずれも扱う。※（2）の問題解決ではそのうちひとつ取り上げる。
- D 情報の技術：デジタル作品の設計・制作がなくなった。計測・制御「システム」について取り扱う。プログラミングの内容は高度化、小学校の内容を確認し学習課題を設定する。

※ ガイダンスで3年間の学習の見通しを立てさせるため、A～Dの技術内容について触れる。

### 〈家庭分野〉

- A 家族・家庭と子どもの成長：高齢者との関わり・協働が追加
- B 食生活と自立：和食の調理が追加
- C 消費生活・住生活と自立：金銭の管理が追加

2020年の新教育課程完全実施まで、準備期間もわずかとなり、各学校の状況を知ることで自校にあった準備を進めるための良い機会となった。

臨任、非常勤で授業をしているところもあるので、区内で協力し合って準備を進める必要を強く感じた。

# 平成30年度 栄区研究報告

## 1. 研究主題 「新学習指導要領に向けて学習指導の充実」

本年度は新学習指導要領を意識した「指導の充実」という内容で区研のテーマ設定を行った。これからの全面実施に向けて、学習内容と育成する資質・能力の充実を図るため、新学習指導要領の3つの側面の1つである「ICTの活用」に注目して授業実践を行った。

## 2. 研究経過

6月	研究テーマ決定
6～9月	各校で、授業実践
10月	授業公開・実践報告・研究協議

## 3. 研究内容 「ICT機器を活用した授業実践」

- ①「エネルギー変換の技術」の「はんだ付け作業」という授業のなかで、ICT機器を活用した。
- ②テレビモニタに拡大投影機とPCを接続してどちらも利用できるように準備した。
- ③教師の見本を拡大投影機でテレビモニタに表示する形で行った。
- ④今回の授業は、生徒に練習用基板を配布し、製作品の作成の前段階の「練習作業」という位置づけで行った。

## 4. 結果・まとめ

- ◇従来、各テーブルを回って見本を示していた内容をテレビモニタで一斉に提示することができるので、指示がスムーズに伝わった。
- ◇細かい作業の見本を拡大投影機でテレビモニタに表示することにより生徒の作業効率が改善された。
- ◇作業だけでなく、教科書や資料などもテレビモニタに表示しながら説明することにより、見通しを持った授業ができた。

## 5. 今後の課題として、

- ▷授業展開をより充実させるために、PCの活用も必要である。例えば、パワーポイントを利用して、作業の流れを提示する。
- ▷全体に見本を示した後、個別にテーブルをまわり再度見本を見せる。
- ▷取組に対する評価を写真などで拡大して、提示すると一層生徒のやる気を引き出すことができる。
- ▷ICT機器だけに頼るのではなく、ホワイトボードへの板書も活用しながらスムーズな授業展開を工夫する必要がある。
- ▷作業時間の間は、はんだ付けしている動画を流し続けると生徒が何度も見ることができて効果的ではないか。

今回授業実践を通して、授業に見通しを持たせたり、流れを理解させるためのツールとしてはとても効果を発揮していたと思う。その反面、全体への情報伝達がスムーズに行えるからこそ、個別の指導を一層丁寧に行っていく必要があることを学ぶことができた。今後は、グループワークや話し合い活動などの授業でどのように「ICTの活用」ができるか、研究を重ねていきたい。

## 区番号

# 平成 30 年度 泉区技術・家庭科研究部会 研究報告

### 1 研究主題

生徒の意欲を引き出す授業の工夫

### 2 研究主題設定の理由

生徒が自ら積極的に授業に関わり、自ら進んで学習に取り組むことができれば、学習効率は上がり、今後の生活を自ら構築していく力を身に着けられると思われる。そこで、授業において、生徒が自ら学びたいと思わせられるようにするための工夫について、各校で行っていることを話し合い、各校に持ち帰って実践したいと考えた。

### 3 研究の経緯

今まで各校で行ってきている生徒の意欲を引き出す工夫を発表し合い、それぞれの学校に持ち帰って実践してみることとした。また、区の教科研究会ではそれらの工夫を取り入れた授業を行ってもらい、工夫の実践及び振り返りを、意見交換をもとに行い、今後の各校における授業に取り入れられるように努めた。

### 4 研究内容

#### 題材や教材における工夫

- ・実生活で生かすことのできる実習を多く取り入れる。
- ・一般生活に関わる話題をできるだけ提供する。
- ・身近な、生徒の興味がわきそうな題材で、課題に取り組ませている。
- ・他教科と連携して授業を進める。
- ・触れる、体験できる教材を用意する。
- ・グループワークを取り入れて、積極的に授業に取り組めるようにしている。

#### 作業の説明における工夫

- ・要点をしばって話すことで生徒の理解を深める。
- ・陥りやすい間違いをしっかりと説明して失敗を少なくさせる。
- ・説明を一方向的にせず、やり取りのある授業づくりをする。
- ・オーバーヘッドカメラや実物投影機などの視聴覚機器を利用し、実際の作業の様子を細かく見せるようにする。
- ・作業ポイントをまとめた掲示物を作り、講義後も各自で再確認できるようにする。

- ・作品を作る前に完成予想図を書かせて、作品のイメージを明確化する。

#### 作業における工夫

- ・可能な限り用具を生徒それぞれに行き渡らせられるようにし、生徒の待ち時間を作らせないようにする。
- ・消耗品などは余裕をもって使えるように用意する。
- ・質問する人と完成を見せる人の列を分け、効率的に生徒に指導できるようにする。
- ・作業中の出来栄を褒め、意欲を継続させるようにする。
- ・作業の途中で点検することで各自の課題をはっきりさせ、大きな失敗を防ぐようにする。
- ・身近な素材や家庭で不要になったものを再利用し、工夫次第でどんなものでも材料にできることを実践的に理解させる。
- ・放課後等にも作業時間を設け、必ず完成させるようにする。

#### ワークシートの工夫

- ・生徒が興味を持ちやすい資料を用意する
- ・自己評価をあとで振り返りできるようにし、フィードバックできるようにする。

#### 活動における工夫

### 5 まとめと考察

生徒のやる気を引き出すには、まず興味をもちやすい題材を選び、そのうえで生徒の理解を深められるように説明を行い、分からなくなった時に確認ができたり、用具をそろえたりすることで作業をスムーズに進められるようにし、ワークシートなどで自分の成果を確認できるようにすることが重要であるという共通認識に至った。

生徒の意欲を、まずは身近な例や自分のアイディアを活用させるなどで引き出し、その意欲を継続させられるように作業等の環境を整え、生徒の成果をフィードバックさせることで振り返りができるようにするといった、各段階で生徒が自信を持って取り組めるように支援することが、生徒の意欲を引き出すことにつながると考えられる。

わからない、できないが続くと、生徒は興味や意欲を失ってしまう。生活に関わる、今までの自分の暮らしてきた様子を振り返らせることで、誰でも授業への取り掛かりができるようにするとともに、生徒の意欲を継続させてあげることで、積極的に授業に参加できるように思われる。そして授業で意欲をもって学んだことは、今後の生活に活用できる力を育てるのではないだろうか。生徒の意欲を引き出す工夫を続けることで、生徒の生きる力を育てられるようにしていきたい。

## 平成 30 年度 瀬谷区技術・家庭科研究部会研究報告

### 1 研究主題

#### 『新学習指導要領に向けたカリキュラムづくり』

外部資源を活用した授業実践 ～学校や地域の特色を生かして～

### 2 研究主題設定の理由

瀬谷区では、新学習指導要領の改訂によるカリキュラムマネジメントの見直しを各校で行い、学年、他教科や領域との関連を考慮して横断的な視点で検討し、カリマネ作成を進めているところである。

生徒の興味・関心を高めることや基礎的・基本的な知識を定着させることを目的に各校で実践している様々な学習活動の工夫について情報交換をし、技術・家庭科の教員間で共有できないかと考えた。

平成 29 年度は新学習指導要領に向けて、「主体的・対話的で深い学び」を取り入れたカリキュラムについての研究を進めた。その研究成果を活用し、学校や地域の特色を生かした授業づくりを今年度の研究主題に設定した。

### 3 研究の経緯

平成 29 年度の瀬谷区の研究主題『主体的・対話的で深い学びをどのようにカリキュラムに取り入れていくことができるか』から技術分野では製作過程でアドバイスタイムを取り入れることで主体性が向上する傾向が見られ、一つひとつの作業がこれまでよりも理解できるようになったという生徒の意見が聞かれた。家庭分野では『住生活』や『家族・家庭生活』で多く取り入れられるということだった。

今年度は新学習指導要領を見据えたカリキュラム・マネジメントを作成するうえで引き続き『主体的・対話的で深い学び』について家庭分野を中心に研究することとした。カリ・マネ作成において各校や地域の特色を生かし、今夏の教育課程において提示された『5つの視点』(①教科等横断的な視点 ②外部資源の活用 ③主体的・対話的で深い学び ④ICTの活用 ⑤リアルな課題)を意識しながら研究を進めた。

(表1)

6月	区研究部会主任会 研究主題の設定、研究発表打ち合わせ
8月	授業打ち合わせ
9月	授業準備、チラシの配布・協力の呼びかけ
9～10月	区内技術・家庭科教員アンケート実施(外部資源の活用の有無)
10月	参加者の確認、区役所、民生委員への連絡
	授業実施、地域の参加者アンケート実施
11月	研究授業 研究発表にむけての検討
12～1月	研究発表にむけてのまとめ

#### 4 研究内容

##### 【1】アンケート調査の実施

外部資源の活用の有無

①対象：瀬谷区内中学校5校 技術・家庭科担当教員

②回答：

- A中 ・(教科外)『食育』として1年生を対象にマリノスの食育講座をしていただいている。
- ・保育分野の学習でこども家庭支援課の保健師、助産師に講話をしていただき、地域の親子と触れ合う『触れ合い体験』を2年生で実施している。
  - ・3年生の家庭分野で学校に販売に来ているお弁当業者と提携し、メニュー開発を行っている。
- B中 ・(教科外で)『食育』としてこども家庭支援課の管理栄養士に学年ごとに講話をしていただいている。
- 1年生 朝食について
  - 2年生 スポーツ栄養
  - 3年生 受験期の食事
- ・(学校行事として)「地域交流学習会(小中一貫)」で『簡単な和菓子作り』『焼きそばづくり』などの講座を地域の方を講師に招き、調理実習をする。
- C中 ・外部の活用等は考えていない。
- 特に家庭科に関しては非常勤講師の為、外部とのつながりをもつことの難しさもある。
- D中 ・(教科外)『食育』として2年生を対象にマリノスの食育講座をしていただいている。

## 【2】 瀬谷区中学生の実態：アンケート調査結果の活用

① A 中学校 2 学年生徒 約 160 名 (1 年 学習状況調査より)

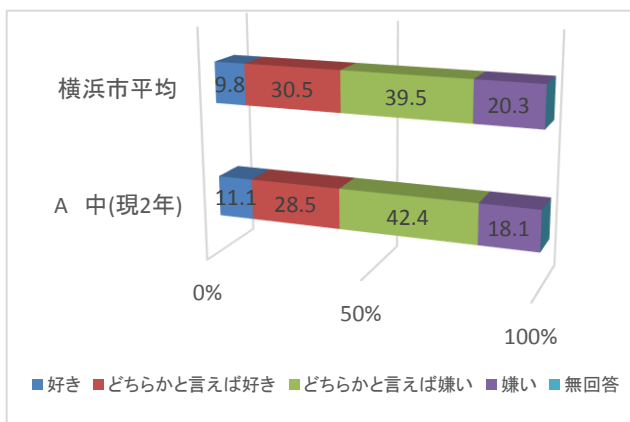


図 1) 勉強への興味・関心

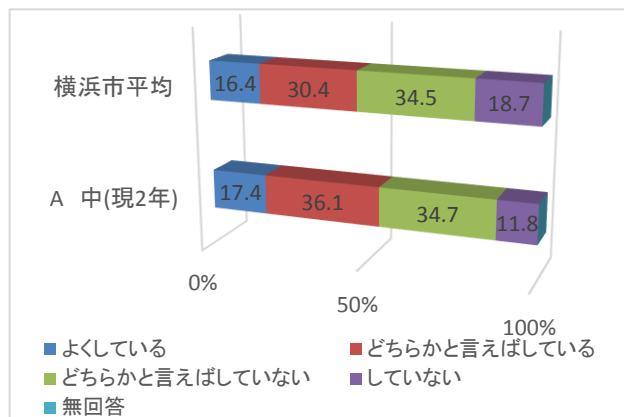


図 2) 授業で自分の意見が言える

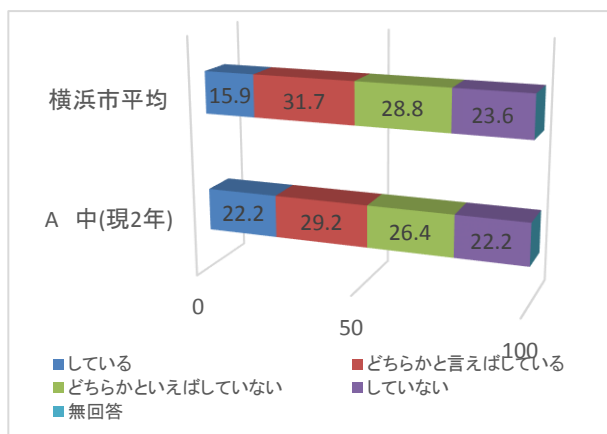


図 3) 地域の行事への参加

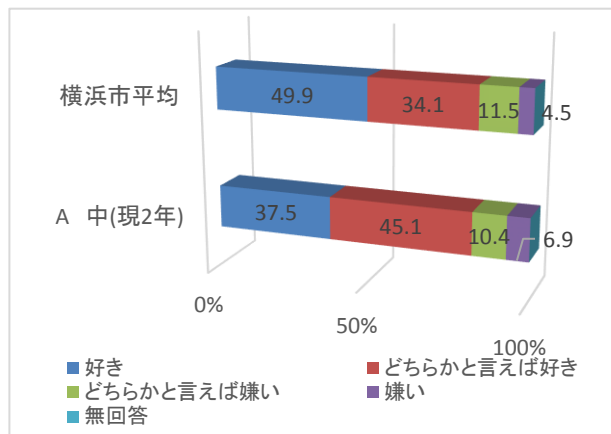


図 4) 人とのコミュニケーション

A 中学校では勉強への興味・関心や地域の行事への参加については、横浜市の平均とほぼ同じぐらいであるが、授業で自分の考えを公表できていると感じている生徒が半数以上おり、市の平均を若干超えていた(図 1、2、3)。地域の行事に参加したり、コミュニケーションをとったりすることが好きな生徒が多い特徴があり(図 4)、コミュニケーション手段としてケータイやスマホの利用頻度が高い生徒もいる。学習面では、学習を苦手とする生徒が多く、読書時間や学習習慣が十分に定着していない傾向がある。

2 学年生徒は明るく人懐こく、活発な生徒が多い。体育祭、学校祭などの行事ではクラスで協力し、目標に向けて取り組んできた。学習に対しては意欲があるが、基礎・基本がなかなか定着せず、結果につながらない生徒も多いため、自分に自信が持てず、自尊心が低く、消極的な生徒が多いという特徴もある。ことばのトラブルも未だに多く、自分の考えや意見を発表することを苦にする生徒も多いため、学年で道徳・学活、総合

的な学習の時間を中心に他者の気持ちを考え、コミュニケーション方法について考えるなど、グループでの発表活動などの機会を設定し活動に取り組んできた。

家庭では乳幼児のきょうだいがいる生徒もわずかにいるが、きょうだいがいなかったり、末っ子である生徒も多くいたりする。そのため、日常的に異年齢の子どもと接している生徒は少なく、異年齢の子どもとの関わりを苦手と感じる生徒も少なくないようである。

## ②A 中学校 技術・家庭科の意識調査（2年1学総合的な学習の時間アンケートより）

総合的な学習の時間で実施した各教科に対するアンケートで、『教科で学んできたことが、日常生活や学校生活、将来(テストや成績入試を除く)に役立つと思いますか』という問いに対して約76%の生徒は、「役に立つ」、「やや役に立つ」と回答しているが、「役に立たない」と感じている生徒も約24%いる(図5)。1学期は食生活分野の学習であったため、振り返りに今後習得したい知識や技能に「料理のレパートリー」「包丁の技能を上達させる」などをあげる生徒が多かったが、「子どもや赤ちゃんへの接し方」なども少数いた。国立政策研究所の調査結果に比べると、分野別の調査ではないので比較は難しいが、A校の生徒の方が技術・家庭科で学んだことが将来役に立つと思う生徒はやや少ないようである。将来の夢や目標に関しても市の平均に比べてやや低い傾向があるので、自尊感情が低いことなども多少影響していると考えられる。

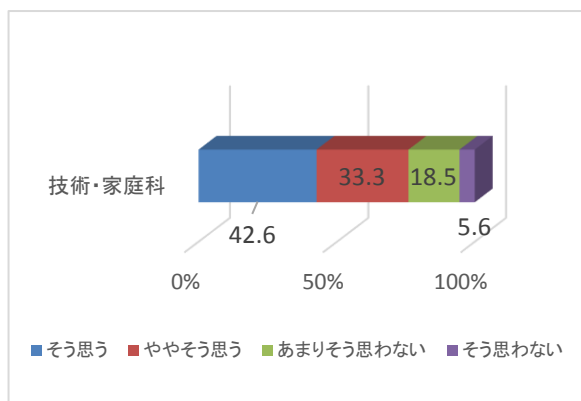


図5) 技術・家庭科は将来役に立つか (A中2年)

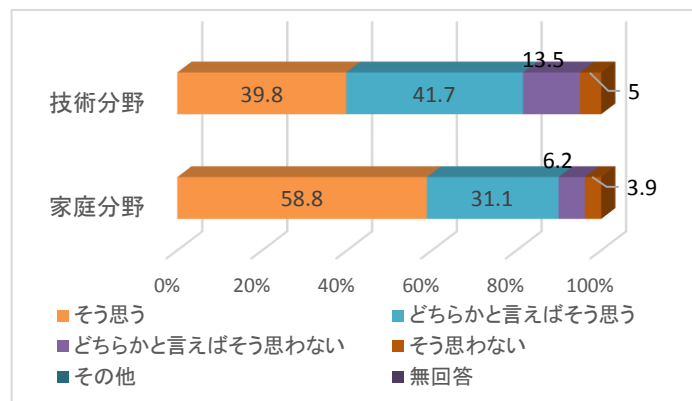


図6) 将来技術分野、家庭分野は役に立つか

評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料  
 中学校技術・家庭 (国立政策研究所, 平成23年7月)



### 【3】授業実践

(表2) A中 A家族・家庭生活(2) 指導と評価の計画(12時間)

時間	学習内容	評価				
		関	工	技	知	評価規準
1	幼児の成長について考えよう① <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ICTの活用</span>	◎			○	幼児の心身の発達の特徴について理解している。(身体の発育、運動の機能)
2	幼児の成長について考えよう② <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ICTの活用</span>	◎			○	幼児の心身の発達の特徴について理解している。(言語、情緒、社会性)
3	子どもと家族との関わりについて考えよう	○	◎		○	幼児の発達を支える家族の役割について理解し、関わり方について考えている
4	遊びの意義を考えよう <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ICTの活用</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主体的・対話的で深い学び</span>	○	○		◎	幼児にとっての遊びの意義について理解している。
5	幼児向けのおもちゃを考えよう①(製作) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ICTの活用</span>	○	○			幼児の心身の発達に応じた遊び道具を考え、製作できる。
6	幼児向けのおもちゃを考えよう②(製作)	○	○	◎		幼児の心身の発達に応じた遊び道具を考え、製作できる。
7	触れ合い体験の準備をしよう <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主体的・対話的で深い学び</span>	○	◎		○	幼児の心身の発達や特徴を理解し、触れ合い体験について考え、工夫し準備をしている。
8	触れ合い体験 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">外部資源の活用</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主体的・対話的で深い学び</span>	◎	○	○		幼児に関心を持ち、適切にかかわろうとしている。
9	体験の振り返りをしよう <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主体的・対話的で深い学び</span>	○	◎		○	幼児の心身の発達や遊び、家族との関わりなどについて、観点に基づいて整理することができる。
10	(研究授業) 体験で得たことを発表しよう(子どもの成長・発達のまとめ) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主体的・対話的で深い学び</span>	○	◎		○	幼児の心身の発達に応じた関わり方について観察や調査したことを生かして工夫し、考えている。
11	幼児向けのおもちゃを考えよう③(製作)	○	○	◎		触れ合い体験を生かし、幼児の心身の発達に応じた遊び道具を工夫して製作できる。
12	幼児向けのおもちゃを考えよう④(製作)	○	○	◎		触れ合い体験を生かし、幼児の心身の発達に応じた遊び道具を工夫して製作できる。

①触れ合い体験 (8/12 時間) 外部資源の活用 主体的・対話的で深い学び

i) 外部資源：瀬谷区役所 こども家庭支援課より保健師、助産師 (計 2~3 人)  
地域の民生委員・主任児童委員 (3~4 名)、地域の親子

ii) 主体的・対話的で深い学び：5~6 人の班活動による体験、  
地域の方のインタビュー、子どもとの触れ合い

(学習の展開)

時間	学習のねらい	内容	スタッフ	媒体
導入 3分	授業の目的を知る	・講義や赤ちゃんとのふれあい体験を通して、命の大切さについて学ぶことを説明	センター職員	
学習 7分	生命誕生について学ぶ	・お母さんのおなかの中の赤ちゃんの成長について知る		胎児モデル 沐浴人形
体験① 10分		2グループに分かれる グループの代表者が体験する ・妊婦体験 ・赤ちゃん人形の抱っこ、おむつ交換体験	センター職員	妊婦体験ジャケット 沐浴人形
体験② 20分	自分もかけがえない命を大切に生まれて今があることに気づく	・グループに分かれて妊娠から出産、現在の子育てにおける思いについて参加したお母さんに話をしてもらう ・赤ちゃんを抱く時に気をつけることを聞く (月齢に応じた赤ちゃんの特徴など)	先生 センター職員	
	母と子とふれあい、新しい生命を感じる	・赤ちゃんを抱っこし、兄のあたたかさ・命の重みを感じる	参加協力の母児	
まとめ 5分	自分を大切にすること、相手を大切にすることはどういうことか一人一人考える		センター職員	

・準備して頂きたいもの：机3台、椅子2脚  
ホワイトボード、マーカーペン  
マイク  
寒くなってきている時期ですので、寒い場合は暖房器具で会場を温められるようにしていただければと思います。

瀬谷福祉保健センター こども家庭支援課



(班ごとのまとめ)

### 妊婦体験をして


感じたこと

～被験者～

- ・動きにくい
- ・妊婦の負担が分かった。

～被験者以外～

- ・つらそうだった。
- ・おもしろそうだった。
- ⇒10ヶ月間は長くて大変なと思った。
- 何ヶ月は...
- ・くつがはけない
- ・おむつは、横方向がはけないといけない
- ⇒1人で生活が難しい



### 妊婦体験をして

感じたこと

- ・赤ちゃんが濃れそうになった
- ・肩が痛かった
- ・重いから歩くのが大変だった。
- ・息が浅い(走れない)
- ・1人だと寝れない (横向きじゃないと寝れない)

「くつがはけない」「ぬぐのが大変」

「履いているだけで大変な感じがした。」



・赤ちゃんの重みを感じた。



### 赤ちゃん人形体験をして

感じたこと

- ・赤ちゃんは首が回っていないため、首をしっかりと支えないと不安定で危ないということがわかった。
- ・オムツ体験で、見ているだけで大変ということがわかった。
- ・抱っこするのが難しかった。
- ・オムツ交換慣れてないと難しい。
- ・頭が重いということがわかった。

### 赤ちゃん人形体験をして

感じたこと


- ・意外と重かった
- ・だっこするだけだとけがをしにくいように足を付けなければいけないことが分かった。
- ・首が回っていないから安全にできたか不安だった。
- ・抱っこが慣れていないから大丈夫かという人形に不安を感じた。
- ・頭が重かった



私たちは3歳と1カ月の子どもとふれ合いました。

ずっと動き回っている

- ・「ク」と言いなさず走り回っていた(3歳)
- ・手の平を多く使っていた(1歳)
- ・見た物を全部さわっちゃう(1歳)
- ・まわまわしていた。(1歳)
- ・頭が重そうに動きまわっていた(1歳)




↓

- ・会ったときに心の底から笑顔で接する
- ・丁寧にそっとそっと手な行動
- ・子どもの気持ちを考えて

私たちは0歳と3カ月の子どもとふれ合いました。

- ・立ちこたえてしまったり(3歳)
- ・知らない人に抱かれると泣く(3歳)
- ・泣き止んで呼吸がつかなくなった。(3歳)
- ・ゴキョウやシヨを吐き出すようになっていた。(3歳)
- ・よだれを出す量にも個人差があった。(3歳)
- ・しゃべりながら泣いてお母さんに抱えようとしていた。(3歳)
- ・いつもの私生活が変わっている。(3歳)
- ・不安状態が続いている。(3歳)

お母さん



②【研究授業】 触れ合い体験の振り返り、発表(10/12 時間) 主体的・対話的で深い学び

i) 主体的・対話的で深い学び：ジグソー班で発表  
(学習の展開)

	学習活動	指導上の留意点	評価方法
導入 5分	本時の学習目標を確認する。	本時の流れを確認する。 触れ合い体験で感じたことや幼児の様子について思い出させる。	
展開 40分	触れ合い体験で活動した内容や幼児の様子を振り返り、気づいたことを他の班の人にわかりやすくまとめ、発表する。  ジグソー班で発表する。  幼児への関わり方を振り返り、よりよい関わり方を考える。  グループで話したことを発表する。	生活班で座らせる。 【5分】 前時にまとめた模造紙から内容を振り返り、発表内容の確認をさせ、3分で発表できるようにポイントを確認させる。  ①・妊婦体験 ・人形抱っこ体験 どちらかの体験をして気づいたことや感じたことを発表させる。  ②地域の親子のインタビューから子どもとの関わり方や活動について気づいたこと、感じたことを発表させる。  ジグソー班に移動する。 【移動1分】 【3分×6】 時間内に発表が終わったグループは、質問や協議をして待つように促す。  生活班に戻る 【移動 1分】  事例を挙げてどのように対応するとよいか考えさせる。 個人で考える 【3分】 生活班で発表し、話し合う 【6分】  (全体) 【6分】 各班で発表し、クラスで共有し合う。	[関心] 幼児の遊びや発達の特徴、接し方などについて整理し、わかりやすく伝えることができる。(ワークシート)  [工夫・創造] 幼児との触れ合い体験を通して学んだ幼児の特徴をまとめようと工夫している。(ワークシート、模造紙)  [知識・理解] 触れ合い体験を通して幼児の発達や生活時間などの特徴について理解している。(ワークシート)
まとめ 5分	触れ合い体験の振り返りをする。	体験を通して学んだことやこれからの自分の生活に生かそうと思ったことをワークシートにまとめる。 幼児だけでなく、周りの人と自分の関わり方を考えさせる。	

2年 2組 氏名                     

## 乳幼児ふれあい体験まとめ 発表聞き取りメモ

年齢発達順に特徴をまとめよう

2. 3 カ月	4. 5. 6カ月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・くしゃみが出ていると驚いていた。</li> <li>・たどっている指をにぎってく水た。</li> <li>5カ月 ・鬼外とまもい</li> <li>・あんまり泣かなくなった。</li> </ul>	7~9カ月	8~11カ月(1?) 10. 11 カ月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・お母さん以外が抱っこすると泣く。</li> <li>・ハイハイが出来る。</li> <li>・手はちねとできているが足はちねとできていなかった。</li> <li>・首がすわっている。</li> <li>・お母さん以外が好手。</li> <li>・まだ泣いている。</li> </ul>
1歳1~2カ月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・お母さん以外がまもい。</li> <li>・自由きき。</li> <li>・服がやぶる。</li> <li>・ちよっと人員知りませす(個性がある)</li> <li>お母さん木がき (お母さん)</li> <li>元気が子</li> </ul>	2歳4カ月 <ul style="list-style-type: none"> <li>・首がすわっている</li> <li>・泣き声(なっている)→ゆるまは</li> <li>うさぎやむ。</li> <li>・お母さんがい。</li> <li>・足がのびている。</li> <li>・お母さん以外と寝る4つ分。</li> </ul>	3歳 カ月	歳 カ月

ふれあい体験をする前と後で乳幼児に対するかかわり方や考え方で変わったところがある人は下に具体的に記入してください。  
 (体験前はあまり小さい子が好きではなかった。しかし、今回、ふれあってみると、小さい子のかわいさが命から、  
 どのように接すればよいか自分も体験して、小さい子ともたのしく安心してふれあえると思ったので、好きになりました。)

4カ月  
 泣きわっている。  
 親のそばにまもりにいられている。  
 服を引っかいていた。  
 お母さん以外がまもりたがっていた。  
 5カ月  
 お母さん以外がまもりたがっていた。

触れ合い体験、発表後の生徒たちの感想

- 「子育ての大変さを感じた」
- 「1つの命が生まれるまでどれだけ大変かがわかった」
- 「幼児でもいろいろなことができることがわかった、思っていたよりも赤ちゃん自身にできることが多いことがわかった」
- 「思っていたよりも重かった」
- 「話せなくても伝えようとしていることがわかった」
- 「生まれてからこれまでにいろいろな人々と関わっていたことがわかった」
- 「1, 2年間の成長のスピードがすごい、短い期間に随分と成長して変わっていくことがわかった」
- 「母に対する考え方が変わった」
- 「これからは、子どもを連れたお母さんや妊婦さんに座席を譲ろうと思う」
- 「以前は泣き叫ぶだけでうるさいと思っていたが、接し方がわかったのでこれからは優しく接し、静かにしようと思う」
- 「小さい子のかわいさがわかった。どのように接すればよいかわかれば小さな子と楽しく遊んで触れ合えると思ったので好きになった。子どもでも個人差がたくさんあってびっくりした」

### ③総合的な学習の時間

### 教科等横断的な視点

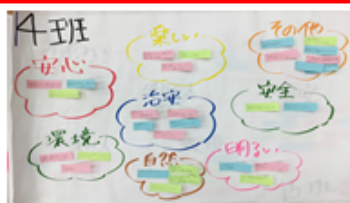
9月～10月の総合的な学習の時間で2年生は『20年後に住みよいまち』をテーマにどのようなまちに住みたいか、どのようなことができるかで身近な問題を発見し、企画を練ってきた。地域の安心、安全や環境について取り上げるグループが多い中で「子育てのしやすいまち」「子どもが安心できるまち」をテーマに企画を練るグループもあった。

学校だより(2018年12月号)

## 2学年総合学習 ～20年後に住みよいまち～

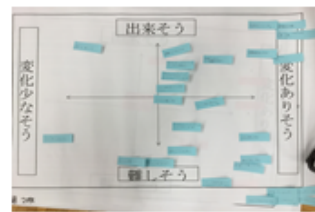
2学年では1年生の時から継続して「20年後に住みよいまち」というテーマで、総合学習を行ってきました。自分たちの20年後、特に「働く」というところに焦点を当てて考えを深めました。変化していく社会に伴って新しくできるであろう仕事、無くなっていってしまうかもしれない仕事は何か。科学技術の進歩により、働く環境はどんどん変容していくことが考えられます。そんな中で人が人として働く上で大切にしていなくてはならないことは「人のつながり・温かみ」である。これが1年生の職業講話を終えての結論でした。..

2年生になってからは、自分たちが住む、ここ瀬谷区がどんなまちなのかを考えるため、鎌倉遠足に行くことで他の地域との違いに触れ、瀬谷という町の良さや、魅力を生かした町づくりを考えるきっかけとしました。そして実際に自分たちが瀬谷のために何ができるのか、今までの調査をもとに瀬谷をより魅力的なまちにするためのプロジェクトが始まりました。20年後、瀬谷をどんな町にしたいのか、そのために自分達は具体的に何ができるのか、何をすべきなのかを考え、生活班ごとに企画書を作成しました。..



#### 第1段階

20年後どんなまちに住みたい??



#### 第2段階

自分たちには具体的に何ができるだろう??

#### 第3段階 ～企画書を作ろう～

- ①再生可能シャッター街 → 閉まっている店の土地を再利用する
- ②気持ち世界一の避難訓練! → 避難所となる小学校などの体育館で一泊二日の避難所体験をする。
- ③地域交流を深めるレク → 地域ごとに大人と子どもと一緒にレクをする

※各クラスで生活班ごとに考えた企画の一例です。

情報収集の仕方や企画を発信するための手段なども含めて、生徒達自身で考えた企画書です。地域の方や区役所、警察署、消防署など様々な方々の協力を得ながら、中学生である自分たちが現在や未来の瀬谷のために何ができるのかを懸命に考え、立案しました。..

#### 最終段階

～作成した企画書を区役所に持っていきました～



各班で作成した企画書は、まとめて代表生徒が瀬谷区役所に持っていき、企画の概要を説明しました。..

2学年は来年1月18日に職場体験も予定しています。実際に「働く」ということを体験し、自分の将来についてさらに、具体的に考えるための良い契機となるでしょう。..

ご協力いただいた区役所の方々、ありがとうございました。

#### 【4】アンケート調査の実施

対象：触れ合い体験に協力していただいた地域の方

実施日時：触れ合い体験実施日 10月25, 26, 29日の3日間の授業終了後

(表3) 触れ合い体験参加者(地域の方)

1日目	2日目	3日目	計
13人	6人	8人	27人

今回の触れ合い体験に協力してくださった地域の方は3日間で延べ27人、アンケートの回答は23人であった。回答者は2ヶ月から3歳の子どもの母親である。参加の動機は、こども家庭支援課が毎月主催している行事(赤ちゃん教室など)がほとんどで、過去4年間の触れ合い体験に参加してくださった方や、A中学校の保護者もいた(図7)。

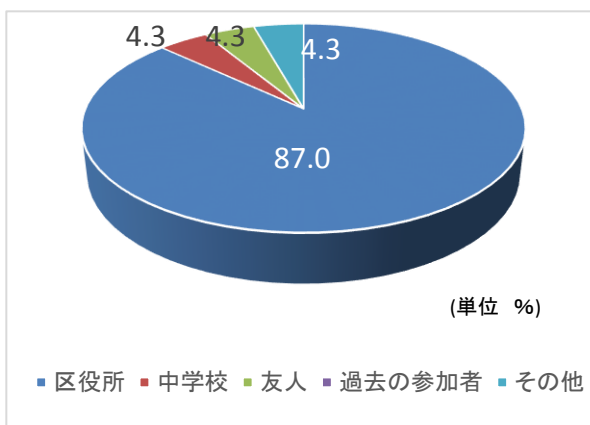


図7) 中学校の授業に参加した動機

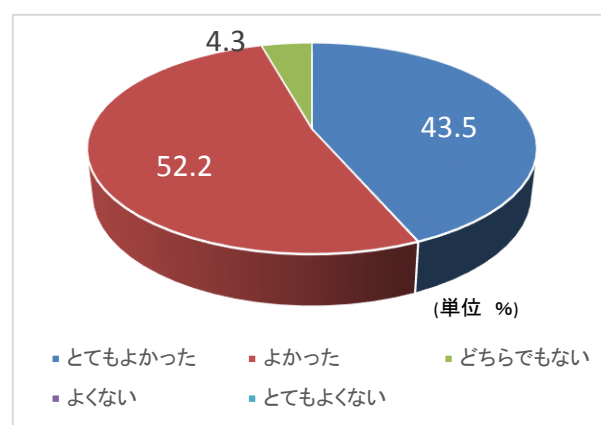


図8) 授業に参加した感想

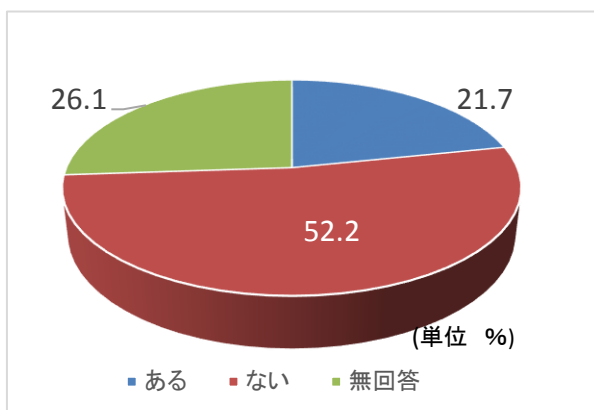


図9) 中学生への期待

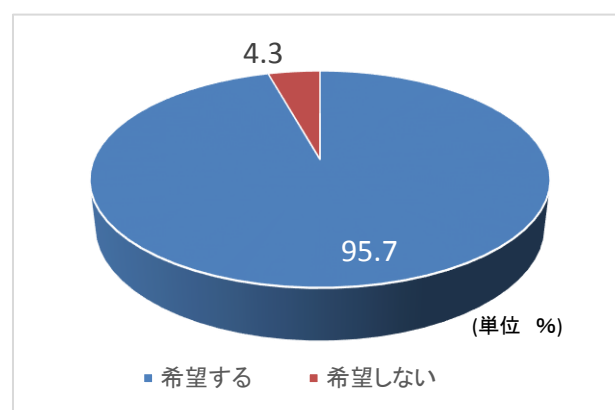


図10) 中学生と乳幼児の交流

参加した感想は、ほとんどの方が「とてもよかった」「よかった」と感じてくださっており(図8)、中学生に期待することについては、現時点において『ない』と答える人の方が半数以上で多く、「元気ならそれでよい」という回答もあった(図9)。また、「以

前、にこてらす（地域子育て支援拠点）で小・中学生のボランティアがいてとても助かったので子どもの遊び場に中学生が来てくれるとうれしい。」などの意見もあった。瀬谷の地域で中学生が元気に明るく伸び伸びと過ごしていくことを望んでいる地域の方が多いのだと感じた。また、今後中学生との交流については、多くが賛成してくださり、「いつも道でよく中学生とすれ違うけれど、こうやって実際に触れあってみるといい子たちだとわかった。」と中学生に対して好意的な印象をもってくださったこともわかった(図 10)。記述の中に、控え室の窓やカーテンの開閉、床の砂ぼこりなどの環境面の問題をあげている方が数名いた。協力をさせていただくためにも来年度は環境面を改善できるようにしっかりと検討し、準備に気をつけたい。

#### (参加者の感想・要望)

「中学生とかかわる機会がないので新鮮だった。折り紙のプレゼントをもらえて（子どもが）喜んでいた。」

「中学生の子たちとかかわる機会が普段はないので息子にとっても遊んだりしてもらったことがいい刺激になったと思う。」

「赤ちゃんを抱っこすると『わ～、小さい』『どう抱っこすればいいですか』と。普段触れ合う機会がないのかなと感じた。興味をもってもらえたらうれしい。」

「子育てのことについて、人に話す機会はあまりないため、いい体験だった。」

「きょうだいがいない子や触れ合ったことのない子たちには、よい機会だと思う。思春期になると、いろいろなことが大変なので小さな子どもと触れ合っても心も落ち着くのではないかなと思う。」

「出産時の大変さよりも出産してからの大変さの方が大きいと思うのでそちらにも意識が向くような授業だといいなと思った。産むのは大変！という前提なので、産むのなんて数時間で大丈夫！とか言いづらい。」

「控え室に寝かせておけるスペースがあると助かる。控え室のカーテンが開いていると子どもの気分が変わると思う。」

「待機している部屋の砂がすごく、もう少しきれいだよかった。」

「もう少し積極的に(中学生が)赤ちゃんと触れ合ってもよかったと思います。」

## 5 まとめと考察

### 【1】研究授業での生徒の反応、様子から

今回は、準備から学習発表にかけて班での活動を中心に行った。地域の方に協力していただき、子どもたちが子どもの成長や発達の特徴の理解を深めながら学習の成果をまとめていった。まず、教科等横断的な視点で見ると、総合的な学習の時間で『将来の街づくり』をテーマに学習を進めてきたことは、多くの班ではないにしても地域の課題に



注目し、関心を高めることはできた。学習していることが区役所に関わる人々の活動、地域の生活や問題ともつながり、日常で感じられる課題に意識的に目を向けることができた生徒も多かった。また、総合的な学習の時間の他、各教科の活動においても班で話し合いや発表をする機会が多くなったことで、発表そのものにも慣れ、ジグソー学習が効果的に働いたと考えられる。

次に外部資源の活用に関しては、子どもに関わる専門の方々の話を聴いたり、様々な体験をしたりすることで、生徒たちの学びの意欲は高まり、ワークシートの書き取りや感想、一人ひとりの発表している生き生きとした姿からも主体的に取り組んでいるように感じられた。子どもたちの言動や家族との関わりをよく観察しており、短い活動時間の中で発達年齢、月齢の違いや子どもの特徴、心情の変化などもしっかりと読み取り、触れ合い体験後の授業でも幼児向けのおもちゃの製作をしながら、当日の様子や関わりを振り返り、よい表情で話をする生徒が多かった。

生徒たちの身近な問題に対して自らが課題を見つけ、問題解決を図っていく過程において生徒の主体性が向上している姿が見られ、専門家や地域の方、生徒間での対話の中で深い学びにつながっているように感じた。反面、体験や発表に比重を置いた学習活動では、時間数の問題もあり、生徒一人ひとりの知識に偏りがでてしまったり、基礎的・基本的な知識そのものが少なくなったりすることが考えられ、今後活動を継続していくうえでの課題は残る。習得した知識や技能を十分に活用して問題解決する力を育てていくように学習過程を適切に組み立てる必要がある。

## 【2】外部(専門家・地域の方)の反応から

地域の方の参加は子どもの母親が多いが、祖母と共に参加して下さった家族もいた。都合のよい日時で1クラスだけ参加して下さる方や多くの方は2日間参加して下さり、3日間連続で協力して下さった方も二組いらした。例年ではご夫婦そろって参加して下さる家族もいて、父親からの話を子どもたちも興味深く聴いている。

地域の方の調査結果からは、地域の中で中学生との接点が少ない方が多い中で、自分の体験や日常の話をする機会があつてよかったと感じた人や、子どもの反応から中学生に対して好意的に感じて下さった方も多いことから外部資源の活用は双方に有効であると感じている。

生徒たちの関心や意欲は高いと感じるが、触れ合い体験で地域の方を前に緊張する生徒もおり、グループ活動を予定通り進行できなくなる班もある。日頃から地域の方と接し、積極的に関わりをもっていくことで改善をしていきたい。学習活動以外でも地域の方とのつながりを大事にしていくことが必要であると感じる。

しかし、外部の方に協力していただくために打ち合わせや事前準備に時間を要することが多いため、各校の技術・家庭科の職員が1人あるいは2人の少ない体制では負担も多く、軌道にのるまでは大変で問題もある。

事後に子ども家庭支援課の職員の方からいただいたご意見

学校、民生、主任児童委員、保健師さんに手伝ってもらって、協力者を募るのは、地域とのつながりがあり、よいと思います。先生に連絡、調整をして頂き、有難いです。

学習活動の流れでは生徒が班ごとに司会を決めているのに、実際に母親たちに会うと質問ができなくなり、時間が過ぎてしまうのがとてももったいないと思います。事前に質問を考えているので、その場でしっかり質問して聞き取り、母子と交流できるように準備をしていただけるとよいと思います。

妊婦体験、赤ちゃん人形抱っこ体験も積極的なクラスもあれば、お互いに嫌がって時間が経過することもあるので、時間が少ない中での体験なので、積極的に参加してもらえると有難いです。先生方にもいつも準備、実施をしていただき、ありがとうございます。

### 【3】外部資源有効活用についての課題と実践に向けて

技術・家庭科の学習活動において現時点で外部資源を活用している学校は、区内ではA校の1校である。その背景には第1に実現に向けて学校内の事情(時間、時期、行事など)で外部との連絡調整が難しいことがあげられる。2つ目に技術・家庭科の正規職員が少ない地域であるため、長期において継続し、つながりを維持していくことを考えると外部との関係や活動を引き継いで実現していくことが難しい。また、綿密に計画を立てて依頼に伺っても協力していただけなかったりしたことも実際にあった。学級数の多い大規模校では、何度も来校していただく依頼はしにくいという問題点もある。さらに、地域の方の協力がどれだけ得られるかも不安材料の1つで、今回の活動の場合は子どもたちの体調や天気などで当日の参加者が読めないこともある。

しかし、生徒が地域の行事への参加や人とコミュニケーションをとることを好んでおり、地域の方も好意的で学習活動に協力してくださるのであれば、協同で学習を進めていくことは生徒にも有効であり、深い学びにつながるということが今回確認できた。

今後のカリ・マネ作成に向けて瀬谷区の地域性を生かした活動を検討していくと、技術分野としては土地や産業を生かし、『生物育成』に関する単元で地元の方に来ていただくことが考えられる。また、子どもの施設のほか高齢者施設も各地域に多数点在しており、それらの訪問や交流による体験や講話なども家庭分野の学習に組み入れていくことは可能であると考えている。

今後、新学習指導要領に向けたカリキュラム作成や外部資源を活用した授業実践の実現に向けて各校で様々な課題が残る中、各地域のコーディネーターを活用して連携し、協同的に活動することができれば技術・家庭科の職員の不安や負担も少なく、地域や学校の特色を生かした実践を試みやすくなると感じた。